

# 北海道コンサドーレ札幌 サポーターズ集会 2019



とき 2019年2月11日  
ところ 札幌コンベンションセンター 107+108会議室

## 2019年サポートーズ集会 (全文)

(司会)えーそれではお時間ですので、一旦後ろ閉めていただけますでしょうか。

それでは恒例のサポートーズ集会を開催させていただきます。

まずちょっとスタッフの紹介と云う事で、今回会場をやっていただくのは私含めて13名のサポートーが色々とご尽力頂きました。 お名前だけ申し上げます。

まず記録係として後藤さん、鎌田さん、熊野さん、高森さん、それと会場係として今ちょっと席外しておりますが千葉、それと根田さん、松本さん、渡辺さん、それと受付として松村さん、坂梨さん、齋藤さんそれと録音記録として中川さん、それと私齋藤の13名でやらせていただきます。 どうぞよろしくお願ひいたします。

拍手

えーあの例年ですとここで直ぐ社長のお話と云うことになるですが、今日は河合竜二さんが急遽時間を調整して来ていただきましたので、河合さんから一言お話をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

拍手

(河合C.R.C)えー皆さん、こんにちは。

昨年度をもって現役を引退することになりました河合竜二です。

12月1日最終戦だったんですけど、その前までにちょっと皆さんにチームを去る報告を出来なくて申し訳ありませんでした。

自分は2011年から、8シーズン札幌に居させてもらった訳なんんですけども、まあ自分が入った2011年からはすごく苦しい時代だったと思います。

えーでも去年クラブ史上最高の4位で終われたって云うことは、本当に自分達のやって来たことが間違いなかったなと思っております。

どんなときも支えていただきありがとうございました。

拍手

今後はコンサドーレのCRC、コンサドーレ リレーションズ チームキャプテンとして、フロントスタッフに就任することになりました。

まだまだ至らない所一杯あると思うんですが、会社の皆さんに助けてもらしながら、自分も成長してチームの成長に貢献できるように日々頑張っていきます。

これからも応援よろしくお願ひします。

拍手

(司会)ありがとうございました。

ありがとうございました。

それではちょっと業務連絡と言うと、あれなんですが、ここの会場のサポートーにお渡ししたレジメには直ってるんですが、今日お渡しした物の裏面の、昨年の入手金報告でちょっと誤字が2ヶ所ほどありましたので、この場を借りて訂正させていただきます。

今日あのー後ろの方にカメラが設置されておりまして、同じ時刻で、同じこのプリントをお

持ちの関東後援会の総会の方にこれが中継されておりますので、そちらの方の書類には訂正が無いもんですから、この場でちょっと訂正させていただきます。

えーと一行目の2015年度カンパ縁越金と云うのが、これ17年度の誤り、それと上からずっと降りてきまして、コンベンションセンター当日の設備使用マイク云々って、この部分が2015年ってなっておりますが、2018年って云うことに、18年ですね、それに日付が変わりますので、そこだけを訂正させていただきます。

以上です。

えー今も言いましたように、同時刻で、関東サポの方も皆さんご覧になっておりますので、そういったことも意識されていろんなご質問もされては如何かなと云うふうに思います。それでは社長、恐れ入ります。

よろしくお願ひいたします。

拍手

(社長)皆さん、いつも本当にありがとうございます。

竜二もようやくこっち側に来ましたんで、早く来いってずっと言ってきたんですけどね、なかなか、まあでも最終的にはクラブのために一緒に働くことが出来るようになって本当に良かったなと思ってます。

あのー去年は僕ハワイからだったと思うんですけど、最近物忘れが激しくてここで一体何を喋ってたのか全然よくわからないので、一応僕一通り喋りますから、何か有ればその後質疑応答みたいな形で、あのー時間を過ごせたらなと思ってます。

報告というか今丁度練習試合やっていて皆たぶん内容とか報告してくれる人いるんですか。結果とか内容とか、いないですよね。

います?、たまにこないだの、何かタイのとかも、うちの試合が普通にYoutuibeに上がってビックリしたんですけど、まあまあそれはいいとして、えーと前半の内容を一応強化スタッフからLINEさせました。

読みます。

前半は一応2-0で勝つてました。

えー最初がコーナーキックから、福森のコーナーから宮沢のヘディングかな、でー2点目が中野のクロスからアン・ロペの2-0で45分終了、この後の後半は確か30分でやるって言ってたんで、変則的な感じだと思います。

後半で変わったメンバーが、ソンユンに代わって菅野、ジェイに代わって武藏でスタートしてます。

で、内容は立ち上がりあんまり良くなくて相手にちょっとボールを握られましたが、コーナーから1点取った辺りから、まあボール持てるようになって札幌のペースと。

えーアン・ロペ、ジェイのコンビネーションなど良い所はたくさん出てます。

中野に関して、今日は中野が菅じゃなく中野がスタートなんんですけど、攻撃に関してストレスなくプレーして、まあアシストもしていて良い形でしたと。

まあ守備に入った時ちょっとバタバタ感はありますって云う感じですかね。

えー今また入りました、後半2分アン・口ペのシートの跳ね返りをルーカスが決めて3-0と。

入る度にじゃあ報告しますね。

えーとりあえず今そんな状況です。

サッカーの、話をまた後でしますけど、一応クラブの全体の話をしますと、まあ僕ここに来てからもうこれで7回目？6回目？位です。

6回前、6年前ぐらいのコンサドーレ、ますごく大変な時期で、全体の売上げが大体10億円位、で一強化に3億円位を使ってやっていました。

その年は財前が監督やってくれたんですけど、最終戦で勝てればプレーオフに行けるよって云うようなところでまあ勝てずに確か8位だったかな。

えー3億円使ってJ2で8位だったと、ただまあ昇格したクラブ達はみんな平均十数億円の強化費を使ってたクラブでしたと。

でー今年じゃなかった、去年のシーズンコンサドーレ史上一番まあ成績が良かった訳ですけど、全体のクラブの売り上げは10億円から、6年前の10億円から30億円位まで増えて強化に15億円位使えるようにまあなりましたと。

えーとまあ僕も選手だったのでどんなに少ない予算であっても選手達は、まあJ2だったら昇格、J1だったら残留だともっと上を云うふうに目指すのはまあ当たり前ではあるんですけど、一步引いてこの立場とか、まあサポーターの皆さんも同じ様な感覚で見てもらいたいなと思うんですけど、ある一定の予算行かないとなかなかこう勝負することはまあ難しいと。

それで20年間位、あのーちょっと悔しい思いをしてきたのがようやく何とかJ1で戦えるようなクラブのサイズにはまあなってきたかなと云うのがまあ現状です。

ただまあ去年4位にはなりましたけど、去年でも売り上げなんかで云うとJ1で下から多分4番目とか位なんですね。

今期ですけど、まあ売上げ、予算ベースで、下からそうですね、下からって言わな方がいいなもう、真ん中くらい、えーもうベスト8とか10に入るクラブはちょっと抜けてる存在なので、去年仙台さんと同じぐらいだったのを仙台よりもまあ上に行きましたと、今度は鳥栖、広島、ジュビロ、清水辺りかな、と同じ位のサイズのクラブにもうすぐなれそうです。今年なれるんじゃないかなと云うところまで来てます。

ということは、やっぱり去年4位であったとはいえ、まだまだ自分達よりも戦力があって、強くなる可能性のあるクラブって云うのは僕らよりもやっぱり10チーム以上沢山あるのでこちら側としてはもっとそれなりのサイズの大きなクラブになれるように引き続き努力をしていくと云うような状況です。

ただまあ、何とかこう 右肩上がりで来てますんで、まあそこは、もう一個言っておくと去年なんか一応赤字予算を組んでるんですね。

えーマイナス2億5千万円位の赤字の予算を組んで去年戦力とか、まあミシャさんとかも含めて充実させたんですけど、まあ結論としてはまだ株主総会前んですけど、一応9千万円位の赤字にまあ押さえるような状況で去年は来ています。

今期も、まだこれも株主総会がまあ先ですけど、まあ若干の赤字の予算を組みながら戦力とかチームをもうちょっとこう充実させるようにしていこうかなと云うふうな段階です。

どこでとんとんに持つていける様にするかって云う所ですけど、まあ皆さんご存知の通り札幌ドームがなかなかフルに使用出来ないと、まあラグビーのW杯があつたり、まあ去年もそうですね、の準備、東京オリンピックとかがあるので2021年辺りに殆どのゲームを、リーグ戦をドームでやれるようにして、その時に集客をドンといけるようなもくろみで今のところやっています。

まあお金の事とかで、まあ経営の事でもし何かあれば後で質問してください。

それから、まあチームはそういう状況なので、クラブはそういう状況なので、チームの方はそこそこ戦力が充実してきたかなと思ってます。

えーとまあミシャさん、サッカーの話しますよ、ミシャさん的にもまあ後2年後、3年後はどう云うふうなチームを作っていくか、これはクラブもそう云う思いで今のメンバー構成を考えてはいるんですね。

今年取った選手達は、まあルーカスは一応レンタルですけどオプションが付いていると云うか、まあ自分達の物に出来るような権利を持った契約なので、全員の選手がまあ自分達の選手と、延長したければまあ交渉の末延長できるって云うふうになっています。

なので、今のメンバーで2年後に、3年後にじゃあどうなって行くかを考えると年齢構成も大分狙いを持ってその通りに来てるかなと云うふうにまあ思ってます。

後は何かな～レギュラーどうするかっちゅう話ですね、きっと。

えーと僕はミシャじゃないんで何とも分かんないですけど、今のところ今日出てるメンバーが一番開幕スタメンに近いかなと思います。

まあジェイが出てて、こう言うの言つても大丈夫なんすかね、俺？

笑

大丈夫すかね？、大丈夫すかね？

まあジェイが出てて、アン・ロペが出て、チャナが出て、まあ前の3人は練習とかトレーニングゲーム含めてやっぱ結構いいと思いますよ。

えーとまあ能力も含めて、で、まあ他のチームの人達、J1もJ2も強化の人とか、まあ現場の人達がうちの練習ゲームなんかをよく見に来てる、感想を聞くとやっぱりその3人に関しての評価は結構高いですね。

ただまあ名古屋の試合を多分観た人が多いと思うので、まあ名古屋の時はほんとにもうビックリするぐらい凄かったんですね、前半。

あのまあ、名古屋のスタイルの事もあると思いますけど、えーまあ前の3人は今のところそんな感じです、ただ武蔵が思った以上にやれると云うか、そのボール受けて落としてもう一

回コンビネーションを含めてやれてると、点も取れますから、まあここはシーズンを通してどう変わっていくかって所になるのかな。

岩崎もシャドウやってますけど、岩崎も武藏もんまりまだそのコンビネーションの多いチームで最近やってなかつたので慣れてない、段々こう慣れてくるともう少し上手く出来て、まあ岩崎なんかは例えばサイドのポジションなんかも行けるようにしていくって云うなのが多分今シーズンの序盤戦かなと思ってます。

これ僕の意見ですからね。

ミシャさんがどう思ってるかわかんないですけど。

左はまあ中野と菅が今競争してて、菅ちゃんがなかなかあの若さでシーズンに入つてくるなりピクピク太ってきやがって、ちょっと出遅れてる感はあるんで、まあ今日から多分中野にスイッチしたのかな、これで菅がどういうリアクション見せるかでこっからの2週間、まあシーズンの序盤戦、まあ変わつてくるかなってところですかね。

まあ右はルーカスが今のところやる事が多くて、まあ白井もアベレージはだいぶ上がつて来ているので、まあサイドに関してはだいぶ補強が出来てるなって云う感じはします。

まあサイドよりも中やりたい駒井くんが膝痛いって休んでるので、えーまあでも多分調整してる感じだと思います。

ボランチは荒野と深井とまあ駒井と3人にプラス誰だろうな、まあ伸二もずっとやつてるので、今日の怜も、あつ4-0になりました。

ちょっと待つてくださいね。

早いですね、えつきました？ あつ予想ですか？

最近もう老眼で、わかりますよね？

えーまあ、さつきの2分にアン・ロペのシュート、ルーカスが入れて3-0でしょ。

6分ダイレクトが5本繋がつてビューティフルゴール、福森、中野、チャナ、福森、アン・ロペで4-0です。

あんまり何かね良いのはどうかと思うんですよ。

何処まで言ったかわかんないですけどこっちの試合話をすると、名古屋の時も良かったんですけど、やっぱリカウンターは相当受けます、で、まあそれはもう仕方がない、仕方ないと云うか、カウンターを受けないようにどうしたら良いかなって云うことを学びながらやる段階かなと思っています。

カウンターを受けたくないからじゃあ下がつてサッカーしようかって云う発想はコンサドーレにはもう一切無くて良くて、まあもう3点取られても4点取れって云うようなことを何シーズンか繰り返さないと本当に攻撃的なチームには多分変わっていかないので、まああれつですよでも、こないだも夜、コーチングスタッフとか強化スタッフとかで、まあちょこつと飲んだんですけど 「どうする？どうやって守備するよ」 みたいな話をまあみんなしてるわけですよ。

で、僕はあんまりそういうとこには口突つ込まないでちょっと引いて聞いてんですけど。

多分ミシャさんは、もう前からプレッシャーを掛けるトレーニングって云うかな、その意識づけを今沖縄に来た辺りから相当やっているんですよ。

だからこうパツとハマった時は良いけど、ハマらなかつた時のカウンターを受けるのが日本人のスタッフからするとどうにも心配なんだと思うんですよね。

でも、それはわかると、まあだけど、前からパツとハメるって云うようなその意識をもっと徹底させるような声かけをミシャさんがしてる中で、やられないようにするためにの裏からの声かけは日本人のスタッフがやればいいんじゃないと思っているので、まあ彼らがそういう所に若干の危機感を感じているんであれば、まあこれは正常なチームだなと思って僕は聞いてたんですけど。

今は多分そういう状況ですかね。

えーカウンター受けても宮沢が一対一とかになつたら、はーもう祈るしかないみたいな感じですかね。

笑

でもまあ良いんです。

あのーそれを繰り返していくって云うことで、強くなるかなと思ってます。

後ろの方で宮沢、福森、えーと進藤のバックアップみたいな所で結構濱くんが頑張ってるみたいですね。

まあ評価も大分上がってきてるので、何処まで、まああいつの場合は結構努力の天才みたいな所があるんで、この何年間か怪我も多くて筋トレばっかりやってたんで、結構体も大きくなつたりするんですよね。

で、あれでしっかりサッカーできるようになれば面白いかなとは思つてます。

後誰がいたかな、石川もちょっと出遅れてる、まあ後はもう早坂もう何処でもやらされちゃいますから、まあそういう所じゃないかなと思います。

後は新戦力はもう今のところ一通り終わりましたかね、竜孔か、竜孔が沖縄から来て、えーとまあまあそれなりに頑張つてます。

えーと多くの人が選手権ですごく注目しちゃつたので、能力と云うか今の実力以上の物を期待しちゃうとちょっと可哀想だなと思うんですけど、やっぱリアベレージ高いんですね、ゲームやらせるとこういう事も出来るんだって云うことをチラホラ見せてますから、まあ見る人に、何人かの関係者的人は、序盤戦でもしかしたらベンチに入れるかもね位の感覚を持つて見てる人もいるような段階ですね。

えーまあまあ期待はしてくれていいかなとは思いますけど、結構前の方は人いますから、その上を行くんだったらこれは本物でしょうと思いますけど、まあまだほんといい子なので応援して下さい。

後は何かありますか、えー僕ばっかり喋つてもしょうがないと思います。

( 司会 ) 私ちょっと聞きたいのは、

( 社長 ) 素晴らしい。

( 司会 ) 社長の、まあ当然リーグ戦はそうなんでしょうけども、

( 社長 ) はい。

( 司会 ) 今までその天皇杯だとカルヴァンとか、

( 社長 ) はい。

( 司会 ) その辺の体重の掛け方って云うか、重心の置き方ってのは結構軽くだったような気がするんですよ。

今年からはどうなんでしょうか、その辺の所。

( 社長 ) 軽くは無いんですよ、軽くは無いんですけど、まあリーグ戦どうしてもトップチームみたいなAチームっぽい選手が出て、ルヴァンに関して、まあ天皇杯に関して、まあちょっとこう普段ゲームやってなかつた選手が出るって云うのが、まあ他のチームも大体そうなんですね。

ルヴァンとか天皇杯もベスト4とかまで行けばそれなりにやりくりしますけど、そこまでたどり着く前は、やっぱり普段出てない選手がゲームに出て行くって事が、これはもう同じだと思います、今年も。

でまあこれがA C Lになるとまたちょっと変わってくるとは思うんですけど。

そうすると、えーとまだね、例えばこないだの名古屋戦とか、まあ向こうは強化費35億円位ですよ、うちが今年18億円位、半分位なんですけど、トップチームではその一クオリティーとかサッカーでもまあ上回れたとしても、やっぱ2本目3本目なってくると、そこにちょっと差が出てくるみたいな事は、もうこれはどうしても仕方ないかなと、まあうちのチームの2本目3本目に出るような若い選手達は、ほんとこれから選手達で、まあ逆に相手チームでビッククラブはそれなりにもうあの一成長した選手が出てくるので、まあそこはちょっと下がるのは仕方ないかなと思いますけど、まあ去年やっていた若手もミシャの元で2年目になるので、それなりにはやれるようになるって云うか、なってほしいって云うそういう感じですかね。

そんな感じですよ。

でまあそれをAチームAチームでやるチームなんかないですからね。

( 司会 ) いや~それはそうですけども、

( 社長 ) はい。

( 司会 ) えーまあ何年か前、国立の心配をちょっとした様な時期もあったんですよ。

( 社長 ) 天皇杯？

( 司会 ) 天皇杯、ですからそういう雰囲気がサポーターが毎年こうある程度、準決勝準々決勝位の雰囲気がこう味わえるのかなと。

( 社長 ) いや~味わいたいですよ。( 笑 )

これはね難しい所です。

えーと、運もないといけないですしね。

全部のタイトルを取りに行こうって云うふうに思えるようになるにはやっぱり、もうそれこ

そこっち側が、クラブ側が、じゃあもう名古屋とか、そのレッズとか、鹿島と同じ位の売上げをあげて準備を出来るようにならないとなかなか難しいと思います。

あの、クラブとして狙いに行くって事に関しては、ただまあ選手達は、いつもリーグ戦に出ない様な選手達も自分達がチャンスだと思ってそのゲームに必死になって戦いに行くって云うことはやらなきゃいけないとは思いますけど。

まあどっちの、クラブの視点に立つか選手の視点に立つかでまあまあ思いは大分変わってくるとは思いますけど、そうなるように、えーまあどつかでやっぱり近いうちに何らかのタイトルが取れるようにしたいなと思いますし、まあ多分それぐらいにはなってきてると思うんですよ、Jリーグの中で上から10番目位のクラブになれたとするなら、そのチャンスはかなり高くあるはずなので、まあもちろん狙っては行きたいとは思ってます、僕は。

(司会)わかりました、ありがとうございます。

では社長あれですか、社長の方から何かこれだけはサポーターに言っておきたいって事はもうないですかね。

(社長)いやーどうですか、あのーもう普段通り、いつも通りと云うか、毎シーズン毎シーズン自分達の立ち位置をしっかりとわかっていて、チャレンジして行くって云うのがまあうちのクラブの良い所だと思うので、去年4位だから今年3位でしょうって云うのは、思っても良いんですよ、思っても良いけど、すんごい難しいって云う事を頭に入れながらまた一緒にやってもらえばいいかなとあ思ってます、はい。

(司会)はい。

まあ私、個人的に感じるのは、まあ野々村社長になってから非常に風通しが良くはなって、まあそれまでの社長達もみんな一生懸命やっていただいたんですけども、ただ何かこのやつてる部分が良く見えてこなかつたって云う部分があるんですよね。

でーそれが何処に現れてくるかってと云うと、昔はサポーターズ集会はもう6時間とか、7時間とか、ほとんど苦行の様な長い時間が続いたん…

(社長)何を、何をやるんですか。

(司会)いや、結局あれですよ、あのーことごとくいろんな事を聞きたい事が沢山あるんですね、でも野々村社長になってからもう常にいろんな所で、こういう風にしてます、ああいう風にしてますと云う事を公表して頂いているので、サポーターがやっぱり特にこれだけは聞きたいとか云う事が段々少なくなっている、だからそれだけ安心してクラブに任せていられると云う信頼感が出てきているんです。

(社長)安心はしないで下さい。

(司会)ですからサポーターズ集会も、ここはホントにもう2、3時間で今はずっとここ何年間かは終わっていると思うんですけども、我々としては非常にクラブが順調だと楽って云うのが現実。

(社長)まあ順調かどうかはちょっとまあわからない、わからないと言いますか、どうですかね、ほんとにこうDAZNが入ってきたり、神戸さん、まあ楽天さんがああ云う動き方を

したり、まあ豊田も同じ様な動き方をしてるんですけど、やっぱりサッカークラブ、Jリーグのクラブでももっと大きくなつて良い選手を獲得して魅力的なチームを作つて沢山お客様を呼んでみたいな事のスケールが大分変わつてきてるですね、何チームか。

で、去年とか一昨年位までだつたら、ほとんどオリジナル10のクラブの売上げってずっと変わらなかつたんですよ。

ずっと変わらないって事は僕らが伸ばしていけばその差がどんどん縮まって行つたんですけど、最近ですね、去年とか今年とか、何チームかぐつと大きくなろうとしてる中で、まあ僕らも大きくなつて行くとは言え、その差はなかなか詰まらないって云う事が考えられるのでこの辺までは僕も、適當に言つたらおかしい、何となく感覚として来れるだろうなと思ってましたけど、クラブもこつからまた売上げが今、今年35億くらい行くであろうの、50とか100にするには、又違つたアプローチで少しこうクラブを作つて行かなきゃいけないかなとは思つてます。

まあもうそなればもっと上と肉薄出来るんですけど、そう言う事が出来なかつたとしてもコンサドーレって云うクラブは、この町でみんなで作つて、そんなに大きくはないけど戦える面白いクラブだよねって云うものはしっかりとこう毎シーズン残して行きたいなと思っています。

えー例えると難しいんですけど、よくねミシャさんと話してるのは、まあこれサッカー良くわからないとか、余りマニアしかわからないと思うんですけど、イタリアにアトランタって云うクラブがあるんですよ。

アトランタと云うクラブは売り上げもそんなに大きくなくて、クラブのサイズもそんなに大きくなないんだけど凄く魅力的なサッカーをしていて、今セリ亞Aでもまあ4位とか5位とかまあそれ位にいたり、こないだカップ戦でユベントスに3-0で勝つたりみたいなクラブがあるんですけど、まずはそう言うアグレッシブなクラブに僕らはなるんだって云うことを中期的な目標にして、そつからは上にどれだけ近づけるかって事をやって行くようにしたら良いんじゃないかなと思っています。

(司会)では質問タイムに入つていいですか、社長。

(社長)全然いいです。

(司会)はい、ではサポーターの方で社長に直にご質問されたい方は挙手をお願いいたします。

係りの者がマイクを持ってお伺いいたします。

誰かいらっしゃいませんか。

(社長)深井に代わつて怜が入りました。

これ言っちゃダメなのかな。まあ、大丈夫か。

(司会)良いんじゃないですか。

(社長)大丈夫だな多分。非公開とかだつたらダメですよね。

(司会)ご質問。

(社長) はい、お願ひします。

(司会) マイクをお持ちして下さい。

(ウチダさん) すいません、よろしくお願ひします。

あの一個人的な感覚で質問なんですけど、去年水撒き結構やったと思うんですけど、厚別の水撒きがどうも僕の中では気にくわなくて、あの一結構水溜まりがその所に出来たりとかして、試合前に「あー絶対ここで誰か転ぶ」と思つたら

(社長) あー何か滑りやすくなっちゃうって事ですか。

(ウチダさん) 三好と菅がやっぱりそこで、ぬかるんでる所で転んだりとかして

(社長) ぬかるんでるってもそんなにぬかるんで無いんですよ。

ボールが止まっちゃうとかって云うことでなくてちょっとスリッピーなのに対応できない・・・菅が悪い。(会場笑い)

それで良い、竜二?

それで良い。

でもやっぱり手撒きなんで、ドームも手で撒くじゃないですか、スプリンクラーがないからまあなかなかこう均一にはできないのはあるかなとは思いますけど、でもね、ほんとあれですよ、コンサドーレが水を撒いてサッカーをするなんてと云うことを5、6年前は想像も出来なかつたですからね。

もうそれをちょっと感慨深いなと思って転んでる奴を見てください。(会場笑い)

(ウチダさん) わかりました。

あともう一つすいません、報道で見てクラブハウスを本当に建てるんですか?

(社長) ああーどうですかね、クラブハウスに関しては僕ら主導って云うよりは石屋製菓さんがあの土地をいろんな土地、あの中をどうファクトリーの建物と連動させてどう云うふうに造つて行くかって云う中の一つなので、僕らから造りましょうとか、造りたいですとか云うことは全然無いです。

多分あそこから居なくなることは僕らも多分ないと思うんですけど、そこは石屋さん次第と云うことになりますかね。

(ウチダさん) ありがとうございます。

(社長) ありがとうございます。

水撒きで云うと、えーと練習中も水撒く様になつたじゃないですか、トレーナーとかに言わせると、やっぱりそんなに強く蹴らなくてもボールが行くんで、怪我、この辺そのなんだろうな、内転筋とか恥骨の部分とかを痛める選手が少なくなった様な感覚があるみたいなのでまあ良かったなとは思つてます。

今度でも相手、アウエイ行った時にスゲー芝伸ばされて水を撒かれないと云う可能性がありますからね、まあそれはもうこっちもやって来た手段なんで、そういうチームもあるとは思いますけど。 はい。

(司会) はい、他にご質問ありませんか?

はい、どうぞ。

質問者はお名前を言ってからご質問して下さい。

( ヤマモトさん ) ヤマモトユウキと申します。

よろしくお願ひいたします。

( 社長 ) よろしくお願ひします。

( ヤマモトさん ) ビッククラブになるための、コンサドーレとハードロックジャパンの関係なんですけども、ギャンブル嫌いでコンサドーレ好きの私は悩んでます。

( 社長 ) ( 笑 )

( ヤマモトさん ) 問題は北海道に根ざすというところで、根強くカジノ嫌いの人がこの前の苫小牧の説明会でも物凄い強い意見がありまして、その中でそういうコンサドーレにまだ興味がなくてカジノが嫌いという人を、ハードロックと組むことでコンサドーレにとってリスクがないのか？どうか？ということがちょっと心配なので、そういうところを教えてください。

( 社長 ) すごくネット情報とかメディアの情報の上っ面をつづいたなあという質問なんですが、ハードロックさんって、IRって別にカジノだけがそこにできるわけではなくて、いろんな施設も含めて多くの人が楽しむようなものができる中でカジノもひとつあります。

で、クラブとしては、カジノに賛成というわけでは全然ないです。

そういう北海道をよりよく経済も含めて、多くの人が楽しみにして、多くのお客さん（観光客）が来るような取り組みを北海道としてやるんであれば、そういうものに対してコンサドーレは一緒になってサポートするっていうのは北海道のクラブとして当たり前だよね？というスタンスです。

カジノっていうことに関して言うと、今心配されているカジノ依存症だったり、マネーロンダリングだったり、治安が悪くなったり、いくつかの懸念されるようなものがあると。

その中で僕らがもしできるとするなら、「依存症ってこういうものですよ」っていうようなことを多くの人達に知ってもらったり、その矯正の仕方をクラブを通していろんな人にPRしていくみたいな。

繰り返すと、カジノに賛成ではなくて、大きなそういうIRのものに対して賛成です。

そこ出てくる懸念に対しては、僕らもいろんなことを「クラブを使って協力していきますよ」というスタンスです。

これは今のそのまま聞くと、カジノができる、そこと一緒にやってる、スポンサーを持つてのクラブがそれで嫌いだというふうに思う人がいるなら、それは仕方ないかなとは思いますけど、僕らはカジノのために一緒にやるんではなくて、いろんな人が幸せになるために、もしそこで依存症になって不幸せになっちゃう人がいる可能性があるのであれば、それをなくすようなこともクラブを通して一緒にやっていきましょう！というスタンスです。

なので、完全な仲間ではない。

どうでしょう？

(司会)よろしいでしょうか？

(ヤマモトさん)はい。

(司会)そのほかにご質問ありますか？

はいどうぞ。そちらの女性の方。 真ん中の。

はい。

(社長)4-0で終了しました。

(会場拍手)

(サトウさん)サトウと申します。

よろしくお願ひします。

(社長)

お願ひします。

(サトウさん)野々村社長がラジオとか何か所で発言されていた中に、コンサドーレがもうちょっと上で戦うには宮澤選手を後ろに下げたほうがいいということをおっしゃって、それをミシャ監督がやってくれると思わなかつたというようなことをこの間、何かで仰ってたという思うんですけど、私もサッカーのことは素人なのであまりわからないのですが、もしわかるような内容であれば、そのことについてちょっと教えて頂きたいと思ってます。

(社長)了解です。

宮澤って、僕はすごい良い選手だと思うんですよ。

サッカーIQがすごく高いので、どの監督でも宮澤を使いたいって今まで思ってきたと。ただ宮澤もウィークポイントが当然あって、スピードがないとか、そんなにすごいミドルシュートが打てるってとかっていうパワフルさはないわけですね。

でもサッカーができる、使いたいボランチだと、もうちょっとスピードもってボールを運んでもらいたいとか、点をとれるような迫力がほしいっていうようなところで宮澤がちょっと足りなかつたんだけど、いっこ下げるに彼のサッカーIQの高さが、特にボールをもったところではすごく生きるですよね。

宮澤になかつた、例えば駒井みたいな自分で運べるような選手がボランチにいたほうが、より相手にとつてはイヤかな？というのがあったので、僕は宮澤はボランチでも全然いいんだけど、ボランチより後ろやつたほうがいいじゃないのかな？と思ってました。

あいつ、サッカーに関して頭いいので、サッカーじゃなくても頭いいかもしれないんですけど一番後ろでも結構インターチェプトを狙える、それもボランチでやるよりはより狙いやすい後ろのポジションのほうがいいのかな？と。

うちのチームはインターチェプトの数って、去年Jリーグで一番だったと思うんですけど、深井とか宮澤がいるからかな？と思ってるんですけど、今の時代のサッカーってどうしても早くなつてるので、特に前の方の選手はスピードがあるかないかというのは結構大きなポイントになるんですね。

そこは裕樹にはもうないというか、全然ないので、もういっこ下げるがいいかな？と思

いました。

全然なくてもあんだけできるんだから、相当な才能だと思いますよ。

褒めてますからね、僕。

(会場笑い)

(司会)本当に褒めてらっしゃいます？

(社長)褒めています。

それは裕樹も自分でわかってるから、えらいんですよね。

さっきの話じゃないんですけど、カウンター受けてヴェルディの若い子にPK取られたんです  
あいつがファールして。

それをソンウンが止めたんですけど、「もうああなったら、僕は終わりです」って普通にい  
いますからね。(笑い)

(会場笑い)

そうならないように、どうやって守備するかっていう頭の良さを後ろで生かしてくれたほう  
がいいのかな？と思います。

ミシャのサッカーやると、後ろの選手の配給も、僕らが見てて本当に違和感なく、ストレス  
なく配給、「そこにパス出してほしいよね」「そこだよね」という選手があのポジションや  
らないとダメなんですね。

たまにいるんですよ、「おまえ、そこかよ」っていう。

でも裕樹にはそれがない。

僕らが上でみているのと同じように、ピッチ上にいてもストレスなくプレーを選択できるの  
でいいと思います。

あれで選手生命3～4年延びるんじゃないですかね？

はい。

(司会)ありがとうございます。

社長に今のあれに関して個人的にお聞きしたいんですけども、宮澤選手って最初入団したとき  
はすごくもの静かで、ちょっと内向的だったような気がするんですが、ご結婚なさってから  
確変したかのように急に素晴らしい気がするんですが、それは何があるのかな。。

(社長)宮澤については、河合竜二にしゃべらせます。

(会場笑い&拍手)

(河合C.R.C)はい、代わりに答えさせていただきます。

宮澤なんですけど、本当に皆さん思っている通り、才能はすごい選手なんですね。

その中でやっぱり僕が入りたての頃は甘い部分もやっぱりありましたし、自覚もそんなにや  
っぱりなかったんですよね。

そこで確か2013年シーズンくらいに、レギュラーも取れなくなってきて、たぶん相当  
な減俸をされて、そこで結婚というタイミングがあって、結婚がすべてだとは思うのですけ  
ど、そういう自分を見つめ直すひとつのきっかけがあつたので、だから今があるのかな？と

は思っています。

ずっとチームの中心となってプレーしてきたので、そこでもうひとつ責任を与えようと思って、キャプテンやってみれば？っていうのは伝えました。

そこから、キャプテンとして4年目ですか？ 本当にチームの中心となって戦ってくれると思いますが。

以上です。

(司会) ありがとうございます。

よくわかりました。

(社長) よかったです。

よくなってるってことです。

(司会) 一部のサポーターですけども、「宮澤選手があそこまで良くなつたのは奥さんのおかげだ！奥さん、奥さんありがとうございます」というサポーターも多いんで、だからその辺で本当になにか奥さんがお尻ぱーんって叩いたのかな？っていうふうに思つたもんですから。

(社長) そういうものもあるでしょうね。

たぶん竜二がいったみたいに、ちょっとうまくいかなくなつた頃だったかな？

どつかからオファーがあつたんですよ、たしか。

それじゃなくて「うちでやろうよ」っていうような感じになつて、あいつ結構長い契約してますからね、もう本当に。

びっくりするくらい長い契約してるので(笑い)

もうここで何かを成し遂げたいという一番、多分、思いが、強い、選手だと思います。

(司会) わかりました。

ありがとうございます。

(社長) って言っててどつかいくとか、もうやめてほしいですよね。

(会場笑い)

(社長) 本当に。

(司会) 出さないでくださいよ(笑い)

(社長) これでもね、これ皆さん、ちょっとしようがないですよ。

契約があつても、どつかからオファーがきて、給料がいくらだみたいな感じになつた時に、最終的には選手の意向をクラブとしてはくみ取つてやって判断しなくちゃいけないので、ゼロ円で移籍される可能性とかっていうのをなくするようにいろんな契約はしますけど、そこばっかりはしょうがないですね。

一人、ねえ、今年もまあ、あ、去年か、いるかな？と思ったらいなくなつたりしますからもう、こればっかりはわかんないですから。

でも裕樹はたぶん大丈夫かな？

(会場笑い)

(司会)ありがとうございます。

他のサポーターの方、ご質問。

真ん中のメガネをかけられた方。

(コマツさん)コマツと言います。

よろしくお願ひします。

(社長)

よろしくお願ひします。

(コマツさん)サッカーと直接関係ないんですけれども、以前社長がラジオ番組で北海道で野球以外のスポーツは全部やりたいということなどおっしゃってた覚えがあるんですけれども。

それからバトミントンとかカーリングのチームも作られていろいろ活動されていると思いますが、これから先ですね、具体的に何かもし検討しているスポーツがあるんであれば、聞かせていただける範囲で結構ですのでお出ししていただければと思います。

(社長)野球というか、プロ野球以外ですね。

別にアマチュアっぽい野球のチームがあっても、全然いいと思うんですけど。

何をしていくかですけど、やっぱり予算も含めてお金の準備が僕らだけでやるというわけではないので、例えば冬のスポーツの団体とどうやって運営していくかっていうような話がまとまつたら、すぐに次から次へと増えていくような状況にはあると思います。

札幌市とかとも、この間スキーとか冬のスポーツの連携の話なんかをクラブと行政でやつたりしてるので、そういう流れが少しづつ助成されていくと、北海道らしい冬のところの部分のスポーツは何個か一緒にやれるよねということが近いうちに皆さんにお伝えできるんじゃないかな?とは思ってます。

はい、以上でございます。

(司会)次、前の方お願ひします。

(サイトウさん)すみません、サイトウといいます。

サッカーのことに関してはド素人なんんですけど。。

(社長)いつもいるでしょ、グランドにいるでしょ?

(サイトウさん)いやあ。

(会場笑い)

(サイトウさん)僕、小野伸二選手のことがすごい大好きなんですよ。

ここ数年見て、伸二選手の活躍はあんまり見えてこないものなんで、今後どういうふうに、例えば引退したらコンサドーレで使ってくれのか?とか、今年どういうふうに起用していくのかということを詳しく聞けたらなあと思ってます。

(社長)小野選手いつも見てるでしょ、練習場にいつもいるんだから。

活躍してますよ。

月曜日から金曜日までのトレーニングの中で、伸二がどういうふるまいをするかでチームの

雰囲気が変わってきたりするんですね。

土日のゲームには10試合弱くらいしか去年関わらなかつたかもしれないけど、そのほかでの存在意義みたいなのは常に見せてくれていると思ってます。

引退をするかどうかはもうあいつに聞いてほしい。

クラブとしては、別に伸二に限らず、この間のイナもそうですけど、特に現場系でいうと、ミシャさんのああいう哲学をコンサドーレとか北海道、もっと言うと日本の中でしっかり残しておかないといけないと思っているので、そういうことを吸収して指導者としてやっていくということを、そうなっていける可能性のある人をクラブとしても何人も指導者として育てたいと思っているので、伸二がもしそういう方向に行きたいとかという話と彼がもう現役いいやというふうに思うタイミングが同じならそういう方向も考えられるかもしれないけどこればっかりはまだまだやるでしょ、伸ちゃん。

楽しそうにやってますよ、毎日、本当に。

はい、そういうことです。

(司会)では、ほかに。

後ろの方で、手を挙げてらっしゃる、一番端っこの、そちらの方です。

(オカモトさん)オカモトと申します。

よろしくお願ひします。

(社長)お願ひします。

(オカモトさん)まずはクラブが大変な時に社長に就任されて、ここまで安心してみていられる。

(社長)安心はしないでください(笑い)

(オカモトさん)どうもありがとうございます。

サポーター代表してお礼を申し上げます。

(社長)ありがとうございます。

(オカモトさん)代表じゃないんですけれども。

(社長)(笑い)

(オカモトさん)ふたつ質問があります。

先ほどおっしゃられましたクラブを大きくしていく、売り上げを大きくしていくというお話で、社長が就任されてから私個人的にお金をずいぶん落としましたが。

(社長)ありがとうございます。

(オカモトさん)一般サポーターはどういうふうに売り上げに更に協力していかなければいいか?っていうのを教えていただきたいということです。

(社長)それがいっこ。

(オカモトさん)もう一つは、個人的なのですが、スタジアムの自由席がありますけれどもそれを指定席にすることはできないのか?ということと、ドームの3階にボックス席だとかカウンター席がございますよね?あそこを開放するっていう計画はあるもんでしょうか?

(社長) そっちの方からいうと、上の新しいシートというのは今年から売り出したりいたりするので、変な話いろんな人たちがいるので単価が高くてもああいうところで見たいなというような人に対するニーズに答えられるような商品は今シーズンはよりたぶん増えてると思います。

自由席を指定席にするというのはクラブとしてはそれが一番やりやすいと思うんですよ。人数も読めるし、ただまあそこまでまだ多くの人が来るとかっていうくらいのレベルにコンサドーレ自体がなってないので、将来的には全席固定みたいなのはなくはないとは思います。それから、一番最初の「お金落とした」ってのが頭に残っちゃって、なんでしたっけ？さつき一番最初の。

(オカモトさん) 我々サポーター

(社長) ああ、サポーターのみなさん。

そうそうそうそう。

一般的のサポーターって言いましたよね？

もうたぶんここにいる人は一般じゃないと思うんですよね。

(会場笑い)

(社長) むしろこっち側の人達だと思うので、皆さんはもう全然好きなようにしてくれればいいと思うんですけど、次の段階ってたぶんみなさんみたいに、コンサドーレが生活の一部としてコンサドーレのクラブがあることでこんなに楽しいだとか充実してるんだみたいな人達をもっと増やせるかどうかがクラブにとって大事なところだと思うんですよね。

なので、本当にクラブと関わっていて、楽しいとか幸せだっていうことが、もしあるんであれば、そういうことをより多くの人に伝えてほしいというのが僕が一番皆さんにお願いしたいことかな？と思ってます。

これはたぶんメディアの人達なんかもまだその辺の感覚がわからないような人達がたぶん多いと思うので、クラブがあつて充実している人がたくさんいるっていうような社会にするには、たぶん皆さんみたいな人達がもっと増やすってことが一番大事だと思いますから、お金を落としていただくのも非常にありがたいですけど、それプラス自分の体験を知らない人に伝えてもらえばなあと思ってます。

ありがとうございます。

(司会) はい、ではご質問。

タケダさん。

(タケダさん) すみません。

わざわざお名前まで言っていただきまして。

最初に今回はあえて「タケダです」と名前言おうと思ったんですけど。

それでお願いがありまして、

(社長) はい。

(タケダさん) ここの会ですね、「お名前をお願いします」と最初に何回も、今回は1回し

か言ってませんけど、毎年何回もおしゃられてるんですが、他のサポーター集会だとそういうことじゃないんですよね、実は。

個人情報保護法とかありますし、主催者もサポーターじゃなくて、クラブ運営会社がやってるもんですから。

(社長)これあれですね、こちらへのお願いですか？

(タケダさん)そうですね。

もし名前をしゃべらないで質問してもOKなんですね？

野々村社長的には。

(社長)そこで俺に質問ですね？

(タケダさん)ええ。

(社長)もう僕はどうぞ、ご自由に。

(タケダさん)わかりました。

(社長)でも僕はこの会の主催者じゃないので、その主催者の意向にしつかり従っていただければと思いますけど。

(司会)主催者側としては、基本的にはお名前を名乗って、その自分のお名前に基づいてご発言をいただく。

いわゆる不特定多数というか、お名前を名乗らずにいろんな勝手なことをご質問されでは困るという部分はありますので、きちんとご自分のお名前を名乗って、それに基づいてご質問していただくというふうにお願いをしております。

(タケダさん)いろいろ言いたいことがあるんですけど、すみません。

僕は個人的に昔からコンサドーレ札幌というクラブを普通のクラブにしたいなという気持ちがあるんですよね、非常に。

そういう気持ちもあります。

それでですね、今年のHPの元旦の内容とか、キックオフイベントとかの内容とかみると、野々村社長が「みんなの力で強くなるクラブです」っておしゃってたんですよね。

非常にこの言葉が気になったんですよ。

先ほどお話がありました、予算規模大きいベスト8とかベスト10とか、こういうクラブはだいたい親会社があるクラブなんですね。

こういうクラブっていうのは「うちのクラブはみんなの力で強くなるクラブです」とは言わないんですよね。僕はそう思います。

だから、このコンサドーレっていうクラブをそういうこれからの経営体制のあり方っていうのは、そういうふうな市民クラブだと特定の親会社を持たない方向で進めようとしているんでしょうか？

そうであるとすると、なかなかちょっと予算規模をベスト8とかクラブ並みにもっていくのは難しいと僕は思うんですけども。

(社長)いいですか？

まず日本の中でも親会社があるクラブが自分達みんなで力を合わせて作っているクラブだと言えないというのは僕は全然そうは思ってないです。

大きなクラブであっても、地元の小さなスポンサーもみんなで協力しあって集めたりしながらやっていって、確かに大きな資本は大きな親会社が出来るかもしれないんですけど、そこに関しては今おっしゃられたこととは僕は全然違う意見です。

うちのクラブに関する限り、筆頭株主が石屋製菓さんである種「親会社」ですよね？

但し、石屋さんはクラブを自分たちのものだとは思ってなくて、より多くの人達に協力してもらって、よりクラブが成長する。

成長するってのは、それこそビジネス的なことで言うと、宣伝広告価値がよりあるようなクラブにして、大きなスポンサーが来るっていうようなことになっていくことを石屋製菓さん達も望んでます。

みんなで作るっていうのは、そこに多くの人達が関わっていて、この地域のこのクラブは魅力的だよねというふうに魅せることで、より多くの資本を、例えば外なのか、ほかの地域から連れてくる。

それはもうみんなでその資本をコンサドーレに誘導してくることをみんなで作り上げた成果ですよね。

僕としては、多くのスポンサーに協力してもらいたいという、その協力してもらえる可能性を広げるためには、ここにいる人達も含めた多くの人達でこんなに魅力的なクラブなんだよと表現する必要があるので、そういう意味で「みんなで作っていくクラブです」というようなことを常に申し上げています。

たぶん想像してるのは、市民クラブで小さなスポンサーも含めて集めながら大きくなっていくことを想像されてるかもしれないけど、繰り返しますけど、多くの人達が関わって魅力的だっていうものを魅せることで日本の大きな会社なのか、外資の大きな会社なのかわからないんですけど、よりあそこにスポンサーしたいなっていうところを呼び込んでくるような力は僕らがみなで魅せる必要があるよねということをやりたいなと思っています。

そういう意味でなんらたぶんコメントとやってることの矛盾点はないかな？と思ってますけど。

（タケダさん）僕は個人的なんというのですか？

ピッククラブで大企業、日立でもパナソニックでもどこでもそうなんですけれども、要するにステータスとして自分達の社会貢献活動の一環として企業がお金出してるんじゃないかなと思ったもんですから、すみません。

（社長）はい、ありがとうございます。

（司会）ありがとうございました。

それではいったんここで休憩に入ります。

後ろの時計で1時10分になりましたら、またご参集ください。

次再開後は、もし関東サポの方で質問がありましたら、川越さん、ちょっとまとめていただ

きたいと思います。 以上です。

では、休憩に入ります。

(司会) それではお時間でございますので、一回後ろの扉を閉めていただいて、では再開いたします。

では、関東サポの中継の方からのご質問ありましたら、お願いします。

マイクをお願いします、川越さんに。

(カワゴエさん) 関東後援会の川越です。 よろしくお願いします。

(社長) お願いします。

(カワゴエさん) 3つほど質問と要望が4点ほどあります。

まず、東南アジア戦略なんですが、タイでの人気はどのような感じでしょうか？

GOODSの売り上げ、視聴者数などクラブに具体的な恩恵はあったのでしょうか？

また、今後の方針をお聞かせください。

(社長) タイで具体的な数字を誰かしゃべれる人はいますか？

だれかいないの？

引っ込み思案なもんで、すみません。

(会場笑い)

(社長) タイでもベトナムでもリーグで一番認知度が高いクラブはコンサドーレだというデータは圧倒的にあって、クラブとしてももちろん北海道の代表としてコンサドーレが人気が出たり有名になったりっていうことはなくてはならないんですけど、もっと言うと、Jリーグを東南アジアの人達にどれだけ面白いものだというふうに思ってもらうかっていうことのほうが日本のサッカーにとって大事なことで。

それはイコール放映権として返ってくるし、そこを取りにいかないとJリーグがヨーロッパの5大リーグに追いつくことはまず難しいので、そのためにもコンサドーレが東南アジアでいろんな活動してるってことはプラスに働いてると思います。

タイだったかな？

ちょっとタイのデータか、東南アジア全体のデータかわからないんですけど、イングランドプレミアリーグがあって、スペインがあってその二つは勿論トップ2で認知度としては高いんですけど、もうその下にJリーグが来るくらい、タイなのか東南アジアでは、Jリーグの人気は上がってる。

セリエAとかフランスのリーグよりも、Jリーグのほうが興味を持つ人が多いと。

そういう状況になっているのは、クラブとしてもすごくよかったです。

繰り返しますけど、それは近い将来、Jリーグに海外放送の放映権が返ってきて、その金額が分配されて、より大きなクラブになっていくということになってくるので、いい方向にはいっているんじゃないかな？と思ってます。

チャナティップがいるんで、この間のタイのキャンプもやっぱり見に来る人の数とかもそう

ですけど、ホテルの対応とかやっぱすごいなあと思って。

タイの人達良い人達っていうこともありますけど、またあそこでキャンプしたいなっていうふうに思うにも十分な対応をしていただけてると思います。

来年も行きたいなとは思います。

(笑い)

グランドが良すぎて、まだ芝の根付きがまだちょっと足りなくてめくれちゃうみたいなところがあつたりもするんですけど、その面に関しては沖縄のほうがいいんだけど、沖縄の予算の7掛けくらいでやっぱタイに行けたりするし、気温もバンコクだとちょっと暑いんだけど、チャンマイだとちょうどいいみたいな感じなのでいいかな?と思ってますけどね。

選手達にもいいだろ?いいだろ?とちょっと言いながら、ミシャさんにもいいだろ?と言いながら、来年も行けたらなと思ったりしています。

はい。

(カワゴエさん)ハードロックのスポンサーなんですが、これは短期的なものか中長期的なおつきあいしていただけるものなのか?答えれますなら、答えてほしい。

(社長)たぶんほとんど全部の契約が中長期の、例えば5年間の契約みたいなのがないんですよ。

ただいろんな話をする中で、この会社とだったら一緒に長くやっていけるし、お互いにメリットあるよねということで、お願いをしているのが現状です。

なので、ハードロックさんと中期長期的ななにかを握ってるかといえばそうではないんですけど、さつきも質問にもあった通り、IRがどうなるかってことも踏まえた上での当然トライになっているので、そっちがどうなるかっていうことも大きな将来どうやっていくのかということのひとつの要素になるかと思います。

(カワゴエさん)札幌ドームとは別にホームスタジアムを持つ計画は今のところ。。

(社長)いつもありますよね。

持ちたいな(笑い)

持ちたいですよね、それは。

みんな、どこのクラブも持ちたいなと思っているし、うちのクラブに関しては当然自由にいろんなことができて、いろんな売り上げの目途がプラスでたつようなものはなきやいけないと思うんですね。

それは将来的には絶対的に必要だと思ってます。

ただ今の北海道とか札幌の流れも含めて考えると、今自分達でこうしたいからこうします!って言えるような状況には僕らはまだないと思っていて、もう少しより多くの人がこのクラブと関わることで魅力があって幸せだと思う人達が増えた段階で、それも地域の人と一緒にになって作るというのが、地元のスポーツクラブの在り方だと思っているので、行政も含めてドームさんどうなっていくのかということも含めて、みんなでこうしたらこの地域がもっと良くなるよね?という話をしながら、みんなで作るということが現段階では一番いいのか

な？とは思っています。

はい。

( カワゴエさん ) ユースの件なんですけども、ユースは今北海道プリンスですが、プレミアに昇格ということの計画とかはあるんでしょうか？

またトップチームへの選手供給含めたユースの育成計画があれば伺いたいです。

( 社長 ) プレミアにはあがってほしいですよね。

あがってほしいですけど、あがるためだけの指導は絶対にいらない、必要ない、そういう指導はしてほしくないと僕は思っています。

すごく将来、うちのトップチームでやるとか、よりサッカーの内容を理解ができるような指導をもっとしていかなければいけないだろうなとは常に思ってるんですけど、まだまだ前もここで言ったかもしれないんですけど、トップチームに上がってくる選手のクオリティとかタイプも含めてアカデミーはもう少しちょっと違った角度から取り組みをしなくちゃいけないなというふうに思っています。

数年前からそういうことに特化した人材をコーチとして何人かずつ入れるようにはしてるので、将来的には変わってくるかなあと思いますけど、プレミアに昇格するためだけにやるということはもしかしたら上がれるのかもしれないんですけど、それだと意味がないかな？と思っています。

が、上がってほしい。

そんなことをしなくて上がるくらいの、圧倒的な何かを北海道からしっかり作れるようになってほしいと思います。

あとはアカデミーは今はミシャさんが来て今年2年目になりますけど、ああいうサッカーをトライするために必要な要素ってどういうようなものかっていうことをアカデミーの指導者がどのくらい考えて子供達に向き合っていけるかどうかっていうところが大切だと思っていて、その感覚で子供達と接することができている指導者と、まだまだ足りないよねという指導者がいるという認識で僕はいるんですけど、アカデミーのところの指導者もプロ契約なので、そこは切磋琢磨していってもらわないといけないなというふうに思っています。

( カワゴエさん ) これから意見というか要望になるんですが、まずユースのユニフォームの件なんですけれども、毎年のことですが、トップと同じユニフォームにはできないのでしょうか？

今、市販のユニを使用しているのを見ると残念に思いますという意見がありました。

( 社長 ) もう、お金さえあれば。

結局そういうことになるんですよね。

クラブの魅力がもっとあるというふうに、サプライのメーカーが判断をしてくれれば、アカデミーのところにももしかしたら同じようなものがいくかもしれないですし、そこはやっぱりそれこそ僕らだけじゃなくてみんなで魅力を伝えていくってことしかないかな？と思っています。

契約もうまくやるってことも勿論こちら側の要素としては必要だと思いますけど。  
もうちょっとしたらなるかもしれないですね。（笑い）  
(カワゴエさん)あと、子供用のユニフォームTシャツに関しての要望なんですが、できれば開幕に合わせてオンラインショップで販売してほしいなという要望がきています。  
(社長)「はい、わかりました」でいいですか？  
わかりました。  
間に合わないかもしれないですが、努力しておりますということです。  
(カワゴエさん)直接関係あるかわからないのですが、チャリティ企画のクラウドファンディングで去年選手3名きてもらうというのがあったんですが、関東にも来ていただけると嬉しいですという話がありました。  
(社長)伝えておきます。  
伝わってます、たぶん。（笑い）  
はい。  
終わった？  
はい、ありがとうございます。  
(司会)はい、ありがとうございます。  
今カワゴエさんにしゃべっていただいたのが、関東後援会の、今関東の後援会の総会やってるそうなんですけど、そこの席上で出た質問ということでやっています。  
では、ここの会場のサポーターの質問にまた続けて戻ります。  
ご質問どうぞ。  
さつき後ろの方に。  
はい。  
(オオタケさん)オオタケと申します。  
今年の、  
(社長)はい。  
(オオタケさん)日程なんですけど、っていうか、うちのチームじゃなくて、FC東京さんが、アウエイが6試合だか8試合だかずーっとアウエーというのがあって、あれって例えばそれって去年のJリーグの実行委員会とかで話題にでた話なんですか？  
(社長)もちろん。  
ラクビーのW杯で使えなくなるクラブが何チームかあって、東京なんかは一番大きな影響を受けるクラブで。  
Jリーグは一応3試合連続アウエーはダメみたいな決まりみたいのがあるんだけども、今期に関してはそれを緩和してやらなきゃいけないですよねっていうような話は当然あって、全部のクラブが納得した上でああいう日程になってるということです。  
ちょっとかわいそうんですけどね。  
(オオタケさん)来年はオリンピックがあって、前の報道でテロ対策だから会場は何か月も

前から使えないという報道がちょっとあつたりとか、そのあたりってそのあと話って進んでるんですか？

(社長) 最小限にとどめてもらえるように、こちらとしても当然お願いはしていて、ただ向こうも「何かが決まらないと決まらない」みたいなお役所なので、はっきりとは決まってないっていう感じでよろしい？

一番聞いてもわかんない人に聞きました。

なんとかうまい具合にやれるようにしたいなあとは思います。

(オオタケさん) というのは、日本って前例主義っていうのがあって、今の話だとJリーグ皆さんのが納得して不当さを認めたと。

これまた将来的な話で、一時消えている秋春シーズンの話がどつかで出てきたときに、「昔FC東京さんはそういう感じで何試合もアウエーやりました」と。

北国のチームの皆さんもそれに見習ってほしいとか話で。

私、サポーターズ集会で前社長が「シーズン移行は条件付きで賛成をしてる」ってふうに、私の中ではそういう認識があるんですけど、そのあと社長のお考えがどうなってるのかな？というのもちょっと聞きたいと。

(社長) 僕はシーズンに関しては、変われるんなら変わってもいいと今でも思っています。変わることでのプラス要素が今のままを上回るのであれば全然いいと思っていて、その今おっしゃられた条件次第というところですけど、例えばコンサドーレだったら確かに試合する会場は雪が降らないところがあるけれども、そこを使うにも雪かきをして中に入れなきゃいけなかつたり、その目途がしっかり立つとか、自分達が練習する環境を確保できるとか、もつと言うと多くの人が快適にスタジアムにいけるような環境が整うとか、それは電車の問題だつたり、寒くなくてあそこまでいけるっていうような、そういうようなインフラがより整つたりして、サッカーから始まった話ですけど、多くの人が住む環境がシーズンを変えることで大きく変えられる、より快適にできるんであれば、サッカー界としてシーズンを変えることで世の中を変えようみたいなもの、それがあるなら僕はいいと思っています。

それは以前から変わっていない。

今と全く同じような環境でシーズンを変えるって、お金もないし、練習する場所もないし、見に来る人達も大変だっていうんであれば、それはもう無理だよねという話でいる。

それは以前と今と僕は変わってないです。

(オオタケさん) わかりました。

あとごめんなさい。

もうひとつ質問とお願いがありまして、社長というよりも河合元選手にお聞きしたいというか、ミシャのサッカーはとにかくボールをつなぐポゼツションサッカーで、先ほど社長の「ミシャは前からハメる」ことを今沖縄キャンプでやっていますって。

で、当然相手チームもうちを見たら前からハメていくサッカーをうちに対策でやるのかな？と。

そうなってくると、D.F・G.Kでボールを回すときに、よくある相手選手がガーッときて、スタジアムが「危ない。うわーっ！」みたいな感じの雰囲気って、これからも起きてくと思うのですけど、そういうのってやってる選手ってどういうふうに感じるのかな？というところをちょっと、そういうのはドーンと構えてサポーターも見ててくれよと、それで取られたらしようがないじゃんというふうに私達も思った方がいいのか？

いや、そうじゃなくて、そういうときには「うわーっ」ていいのか？とかその辺ちょっと選手のキモチを聞きたいなと思うのですけど。

（河合C.R.C）そうですね。

先ほど社長の話にあった通り、ミシャのサッカーは攻撃・攻撃っていうサッカーじゃないですか？

その中でやっぱり危ない場面は勿論出てくるんですけど、2~3点取られても4~5点取るサッカー、それが札幌のスタイルって感じで今ビジョン掲げてると思うので、大きな気持ちで（会場笑い）見守っていただければ。

ミスはあります。

でもトライするミスは全然僕はありだと思うので、サポーターの皆さんもそこは暖かい目で成長していきましょう。

はい。

（会場笑い＆拍手）

（オオタケさん）最後にお願いなんですけど、私今、この会場にいらっしゃる方多いと思うんですけど、20年以上コンサドーレのサポーターやって、うちの選手ですが、引退試合っていうのを今迄観た事が無い、最後の試合だっていうのはありますけど、正式に引退試合で、その選手がいてっていうのは観た事が無いんで、是非とも河合選手には引退試合っていうものをやって頂きたいなという風に思ってます。

（会場拍手）

（河合C.R.C）いやもうほんとに有難いご意見で（会場笑い）、僕のキャリア浦和から始まった訳なんんですけども、最後、このチームで終われた事、ほんとに誇りに思いますし、これからはこの北海道の為に、より北海道が盛り上がる様な行動を、発言とかをしていきたいと思いますので、その、引退試合もその一つだと思いますし、何かこう新しい事が出来ればと思いますので、是非、会社の皆様（会場笑い）、サポーターの皆様、是非、開催に向けて宜しくお願いします。

（会場拍手）

（社長）何か一応、Jリーグで、Jリーグが、ま、認めるって意味じゃないけど、あれどういうあれだったかな？

主観になってくれんのかな？

ま、500、何しゅ、何百試合以上出た選手は、公式に引退試合みたいなのが出来るんですけど、竜二もうちょっと、そこ達成してなかったので、ま、自分らで、又は自分で何かを

(会場笑い)、用意するって、まあでもそれはそういうこう、一つの、ものを運営するとかっていう、仕組み、こういう人にこういうお願いをしないと、この、試合が出来ないんだっていうのを、勉強すればいいと思うので、まあ勿論周りサポートしますけど、実現出来る様に、竜二も、その準備をするっていうので、いいんじゃないかな?

(河合C.R.C)勉強します。

(社長)お願いしまーす。

(司会)はい、ありがとうございます。

社長の引退試合丸投げ発言が出ました所で、

(社長)へつへつへつ。

(司会)では他のサポーターの方、はい。

(スズキさん)スズキと申します。

(社長)はい。

(スズキさん)宜しくお願い致します。

(社長)お願いします。

(スズキさん)私は、Uターン就職をきっかけにコンサドーレのファンとなりまして、

(社長)はい。

(スズキさん)私、大学が九州だったんですけども、

(社長)はい。

(スズキさん)あの、一年目からちょっと、地元が恋しくなって、っていう感じになって、そつから地元貢献っていう所に興味がありまして、その地元貢献活動としてちょっと要望がありまして、

(社長)はい。

(スズキさん)あのー、正式名称が、2016年に、北海道と改名されて、今年で3年目になると思うんですけども、北海道で179市町村を、あのー、回るっていう様な活動っていうのは、選手とかドーレ君とか、小学校に来て、サッカー教室とかっていうのが、あったらいいかなっていう様な、と、思います。

(社長)了解です。

(スズキさん)あ。

(社長)まだまだまだ?

まだだって。

どうぞ。

(スズキさん)あ、今の所、ここで大丈夫です。(本人・会場笑い)

(社長)あのー、それこそ、竜二、が、北海道の、ま、179か、全部行くには相当な年月かかると思いますけど、そうやって色々な地域で、まあサポーターとかスポンサーとか、まあ仲間を増やす活動を、主にして行く、っていうよりは、して行きたいって本人が言っていたので、それ、行くんだろ?竜二。

( 河合 C.R.C ) はい、あの一、より一体感を持って、戦える様に、北海道全員、全道、を回ればいいかなとは思っております。

( 社長 ) いいでしょ？ ( 会場拍手 )

( スズキさん ) す、す、すいません。

宜しくお願ひ致します。

( 河合 C.R.C ) こちらこそ宜しくお願ひします。

( スズキさん ) えっとー、そ、

( 社長 ) あれ？

終わったんじゃなかつたの？

( スズキさん ) ちが、え、え、え、え。

あの一次なんですけれども、全 179 市町村の内、今、今迄に何市町村訪れていたのかなっていう、

( 社長 ) もうでもこれコンサドーレ長いから、

( スズキさん ) はい。

( 社長 ) ほぼ全部行ってるんじゃない？

昔、2百な、

( スズキさん ) 212、

( 社長 ) 212みたいな時に、もうぐるぐる、ほんと色んな所に行ってるんで、只まあ、20年ぐらい、かけてっていう感じにはなってる、とは思うんですけど、

( スズキさん ) はい。

( 社長 ) たぶん、行ってない所は無いぐらい行ってはいるけど、ま、もっと、行きたいよね？

行って欲しいよね？って話ですよね？

( スズキさん ) そうです。

( 社長 ) はい、もう、河合竜二にお任せ下さい。

( スズキさん ) はははははは。

何かちょっと、セレッソのスポンサーの野球球団とちょっとパクリと思われるかもしだれませんけれども、宜しくお願ひ致します。

( 社長 ) 了解でございます。

ほんとに行くから。

( スズキさん ) はい。

( 社長 ) そっち、大丈夫だから。

( スズキさん ) ありがとうございます。

( 司会 ) はい、ありがとうございます。

じゃ、次のサポーター。

はい、後ろの方。

(社長) ちなみにあの、3本目は無得点だったみたいですね。

(オオカワラさん) えーユースサポをします、オオカワラと申します。

(社長) はい。

(オオカワラさん) あの一二つ質問、質問と一つお願ひなんんですけど、

(社長) はい。

(オオカワラさん) 一つの質問はちょっとコンサドーレと直接かけ離れてしまうと思うんですけども、Jヴィレッジに、最近28億円でフルサイズの屋内練習場っていうのが出来たんですけども、そういう施設が北海道に何個かあると、北海道のサッカーの為にすごい良くなるんじゃないのかなって僕は思ってるんですが、

(社長) はい。

(オオカワラさん) そういう施設を、サッカー協会なり地方自治体に、こういう施設を作るのはどうですか?っていうのは、コンサドーレから、声を掛けてくっていう行動は出来るんですかね?

(社長) ってのが1個ね。

(オオカワラさん) ほんとに僕もそう思うの。

で、それを、動き出すタイミングとかきっかけは、たぶんシーズン以降、だと思って、いるからさつきの話じゃないけど、条件付きで、ま、要は、シーズンが変わる、冬もサッカー出来た方が良いよね、出来なきやまでは困るよねっていう所から、シーズンが変わると、始まるので、そういう流れに世の中がなった時に今みたいな話を持って行くのが良いんじゃないかなと個人的にはまあ、思ってます。

で、今のタイミングで言っても多分そんな、Jヴィレッジが28億円で出来たとするなら、北海道で作るならその雪の問題も含めて多分、ま、倍以上の金額がきっと掛かるだろうから簡単には出来る金額ではなくなってきたちゃうので、思いは、あるし、僕にも思いはあるんだけど、そういう動きを、大きな動きを作る為にはどういう世の中の動きを作んなきゃいけないのかなみたいなのは、まあ、一応考えてはいるけど、なかなかそのタイミングにはまだ無いと思ってます。

はい、1個目。

(オオカワラさん) もう1個はあのお願ひなんんですけど、

(社長) はい。

(オオカワラさん) ユースの、ユースの試合、ユースやリラの試合なんですけど、あの一選手達にやっぱり、選手権決勝じゃないんですけど、沢山の観客の前でプレーさせてあげたいと思ってるんで、僕らも勝つような後押し出来る様な応援をしたいと思ってるので、チーム、クラブとして、スタッフの人数足りないと思うんですけど、もっとユースの試合が、いついつあるよ、どこであるよ、リラの試合がいついつあるよ、どこであるよっていうのを、まめに発表とかして頂けると、大変嬉しいと思います。

(社長) クラブの中の発表?

(オオカワラさん) そーですね。

ま、兎に角、あの、やっぱり、すう、ひゃくなん、100人位しか来ない所でプレーするのと、やっぱり1,000人2,000人、

(社長) や、勿論勿論、や、それはホームページとかには常に出てるじゃない?

で、それ以外の、もっと、人が来るような、プロモーションをして欲しいって事ですよね。

(オオカワラさん) んー、ま、そうですね。

ツイッターとかホームページでも、ま、発表してるんですけど、あまり、正直、その、カーリングとかバドミントンより少ないなってちょっと思う所もあったんで。

あのー、スタッフが本当に少ないのでわかってるんですけど、もっと発信して頂けると嬉しいなと思います。

(社長) もう、勿論、じゃ、それはもっとやれたとしても、沢山の人が集まるかどうかはまたこれは別の話なのね。

高校サッカーはもう日本テレビさんが数字を取る為に、もうばんばんばんばん昔から地上波でやってたから今がまあ、あつたりする訳じゃない。

で、じゃ、どっちがレベルが高いのって言うと、まあ勿論、ユース、クラブユース、のが多分レベル高いと思うんだけど、まあ、それでも人が集まる様な仕組みを、数十年かけて世の中が作って来たものと同じ位な事を、チームの、ホームページとかツイッター1個で変えられるとは全く思ないので、そこは、ん————、2万人3万人集まってゲームをするなんていう事は、もう、すぐには多分無理だし、もっと言うと、ヨーロッパの方で同じ様なゲームに2万人3万人集まるかっていうとそうではないので、今の要望に応えられるとは中々思えないんだけど、只まあ、そこで活躍してくれる選手たちが将来うちのチームを背負っていく様な選手になるっていう事は、まあ、ここにいる人達も含めて、もう一回、あの、みんなで応援しなきゃなっていう事は言えるかなと思います。

(オオカワラさん) ありがとうございます。

あの、皆さんあの、ユースも、コンサドーレで頑張ってますので、皆さん応援宜しくお願ひします。

(社長) はい、ありがとうございます。

(司会) ありがとうございます。

じゃ、他のサポーターの方。

はい。

(コヒラさん) コヒラと申します。

宜しくお願ひ致します。

(社長) お願ひします。

(コヒラさん) 私からお願ひがあるんですけど、

(社長) はい。

(コヒラさん) あの、横山選手の、

(社長) はい。

(コヒラさん) あのー募金活動とか、その、やってあげたら嬉しいなど。

(社長) ああ、もう、どこ、何かほんとに必要なタイミングとかがあるんであれば、やりますよ。

やりますし、今は、結構本人も元気だし、今期の彼の、その、なんだろな、色んな費用がかかったりする中で、ま、入ってくるお金の目途も、出していくものもあるけども入ってくるお金の目途も立ってたりするので、ま、詳しい事は中々言えないんだけど、まあ、じゃあ、この、今の、入院生活が長く続いたらしくして、じゃ来年もってなった時に、クラブとして何が出来るかみたいな事は、まあ、考えていて、それはまあ横山とも話をしてたりするのでその時期が来た時にはもしかしたらですよ、お願い、色々なお願いをするかもしれないです

(コヒラさん) ありがとうございました。

(社長) 元気でしたよー。

この間、あの、この間って言っても、去年ですけど、びっくりする位元気で。

最近喋った?竜二。

喋ってない?

(河合C.R.C) 昨日たまたまラインしました。

(社長) すげー。

元気そうでした?

(河合C.R.C) 元気そうでした。

はい、早く治して一緒にお酒飲もうって、言ってたので。

(社長) 元気そうなんですよ。

でも、そんな、結構簡単なものじゃないので、しっかり、治して、もう一回頑張って欲しいなとは思ってますけど。

まあまあ、これ僕ラジオで言いましたけど、僕が病院行ったらあいつプレミアリーグのビデオ見てましたからね。

すげーなお前っていう、位、元気でした。

その前にはなんか、行った選手にはなんか、ベッドの上で体幹トレーニングしてたらしいんで。

まあでもね、あの、治療続ければ続けるほどちょっと多分弱っていく様な所もある様な病気だと思うので、まあ頑張って欲しいな、と言うしかないですね、はい。

(司会) はい、ありがとうございます。

じゃ、次のサポーターの方、はい。

(タカヤさん) ここにちは、あのタカヤと申します。

(社長) お願いします。

(タカヤさん) あの先程あのー、クラブとしてですね、いえ、スポーツクラブとして、あのー、まあ、カーリングとかバドミントンとか、いうお話があつて、まあ、北海道にオールス

ポーツをっていうお話があつたんですけども、まああのご存知の通り今、釧路のクレインズが非常に厳しい状況になっていると、いうところなんんですけども、あの、まあ北海道のスポーツとしてこの辺まで根付いてきた、このアイスホッケーが、今、大変な事になっている。そういう中で、あの、何とかね、クラブとして支援して、いけないものかなって、こう、ちょっととずっと考えていまして、まああのー、こういった事を言うと、あの、困ってるチームが、スポーツ業界あれば全部支えなきやいけないのかっていう議論にもなりかねないんですけど、今ほんとに困っている、そういうた、その、業界っていうかですね、スポーツ団体がある、そういうチームがあるっていった時にね、何かコンサドーレとして出来る事はないのかっていう、このまま例えば、神戸、神戸みたいな所にチーム持つてかかるって方がね、よほど辛いなと、いう風に思ってまして、何とか北海道として、釧路にチームを残せる方法としてね、何かコンサドーレとして出来る事はないのかなと、いう風に考えてるんですけどもこの辺についてはどんな風にお考えでしょうか？

(社長)あの、出来る事ならやりたい。

その出来る事って何かって言うと、例えばアイスホッケーだったら年間運営するのに、まあ以前、苦小牧の方の、クラブとちょっと話をした時に、彼らは年間5億円位の運営費予算を親会社から貰っていると。

釧路の方が一体幾らかわかんないですけど、例えばじゃそんなに多くなくても、3億円だとして、3億円なんだけどほんとは3億2,000万円かかっちゃいます、3億5,000万円かかっちゃいます、位で、そもそも3億円を出していたところが、そのままでうちが営業努力をして5,000万円何とかしましょう位だったら、何とか出来る、かもしれないな。只、一緒になってやって、助けるっていうたらあれですけど、より良くしてあげたいなとは思えますけど、元々やっていた団体がその3億円すら出さずに、クラブ、コンサドーレさん3億5,000万円かかるんですけどやって下さいよっていう事に関しては、ちょっとそれは現実的ではない、ですよね。

なので、どの団体とかどの競技もそうですけど、今以上に良くしていくとこの競技が良くなりますよねっていう事を一緒にやる事で実現出来るんであれば、やりましょうっていう話に今なるんですよね。

だから何とかしてあげたいけどじゃあ今の、アイスホッケーって結構お金かかるんですよ。億単位でかかるものを、ゼロからコンサドーレがっていうのは、ちょっと現実的ではないので、仲間と一緒に連れてきてくれるんであれば、あの、可能性はあるかなという風に思っています。

(タカヤさん)ありがとうございます。

あのー、そういう意味では、今、釧路の市民が一所懸命、チームを支える為の活動をしていて、その中で、釧路の中で、まあ、釧路に限らないんですけど色々な所で今スポンサー求めている、という状況の中で、まあ、社長が仰る通りに、その中の、一部としてコンサドーレがサポートする事は、可能だという風に考えていい、

(社長) ま、一部っていうか、最終的にコンサドーレとしてやつた方が僕は絶対良いと思ってるので、ある一定続けられる様な一定レベルの目途が立つんであれば、話を聞く、一緒にしていくっていう事は、無くはないと思います。

(高谷さん) ありがとうございます。

何かあのアイスホッケー自体が、今、団体自体が、今、リーグ自体が今縮小されていく中ですね、非常に希望が持ちにくい、ところにはなってるんですけども、コンサドーレとしてはそれが出来るのであればやって行けると、

(社長) もうそこは、何のスポーツに関しても同じ様なスタンスで良いと思ってます、はい

(タカヤさん) ありがとうございます。

(司会) はい、ありがとうございます。

じゃ、他のサポーターの方。

はい、アワジさん(トイさん)。(会場笑い)

(トイさん) すいません、トイと言います。

お世話になります。

(社長) え?

(トイさん) ええ。

(司会) トイさんなんんですけど、淡路島のほうから、

(社長) あ、そうなんですか。

(司会) 応援に駆けつけてるサポーターですので。

(社長) まあまあ、新しい偽名を使う人が出て来たのかと思いました。(会場笑い)

(トイさん) あ、あ、あ、ほん、ほん、本名はトイです。

本名トイです。

コンサドーレの情報が届きにくい地域に住んでおりますので、

(社長) はい。

(トイさん) ここを出席されてる皆さん、色々情報を得とるかもわからんのですけどすいません私あの、あまり分からぬもので

(社長) はい。

(トイさん) 改めてここで聞きます。

開催スタジアムの事で、

(社長) はい。

(トイさん) 室蘭、函館、は、今後、やれ、先程あの、社長も、札幌ドームのまた空き状況でどうこうとかおっしゃっておられましたけれども、室蘭函館について、今後、やれる可能性があるのかという事ひとつと、もう一つは、コンサドーレサポーターは、今迄コンサドーレに在籍された選手の事は、その後もずっと皆さん気に掛けておられるんですけども、その中でもコンサドーレのサポーターが特に、思いを持っておられる、神戸に行つた西大伍選手、またガンバにおる今野泰幸選手、まあ勿論監督の色々、チームの方針もあると思うんですけど

ども、今後、その、現役最後、コンサドーレの方に、来て頂けるとか、や、勿論そんな事ここで、あの、オファーをかけますとかそんな事言えないと思いますけども、あの、コンサドーレのサポーターが、かなり強い思いを持っておるという事は、会社の方、皆さんご存知頂いてるのかどうか、ちょっとその辺をお尋ねしたいと思います。

宜しくお願ひします。

(社長) はい、あの、そっちから答えます、けど、あの、普通に思ってますね、それは。

だ、今野何歳？

今ちゃんもう、37、8？

とか、ですよね。

ま、去年まだ、あの、契約残ってたんで、まあ、ほら、契約が終わる時期はまあ、本人並びに代理人に聞けばすぐわかったり、しますけど、ま、大伍に関しては、大伍が30ちょいぐらいなんで、ま、チャンス、が、あるなら、チャンスがあるならってか、うちが、求める物が何かっていう事と、本人が、やりたい事が何かっていう事が、まあ、一致、する、なら、チャンスは、ある、んじやないですかね？

まあ、大伍に関しては結構今年は、直接結構僕も話をしたので、ま、本人、の、キャリアをどう描いているかっていう事はまあ、話はしたんで一応僕の中では、これはお伝えする事が中々出来ないですけど、コミュニケーションは取れて、ます。

えーあんま喋るとダメそうなんでやめときます。

あと、最初の室蘭と函館ですけど、これも繰り返しになっちゃうかもしれないんですけど、Jリーグを主催出来る様な、規模のスタジアムは北海道にはもう札幌ドームしかない、ですねそこで、7割以上のゲームをやらなきゃいけないっていうルールがあるんですけど、なので普通に考えると室蘭と函館は、基準を満たしてないので出来ない。

只、残りの20パー、30パーセントのゲームはやってもいいんですが、クラブとしてもそこで試合をする事での売り上げとか、ま、収入をある程度確保しないと、非常に高いレベルで競争していくって事が難しくなっちゃうので、現実的にはまあ、室蘭の方がお客様の入る数は少ないのかな？

ま、函館で1万人以上入るっていう様なゲームだったら、ま、可能性はあるかもしれないんですけど、ま、いずれにしてもやっぱりさっきの施設の話じゃないんですけど、プロの、ま、国内のJリーグの興行を行なう事が出来るぐらいの、ま、1万5,000、2万人位のスタジアムが、しっかりとしたサッカー専用なのか、そういうスタジアムが北海道に出来る事を、望みたいなとは思いますけど、今の所難しいですね、やるのは。

でも函館での一、J2の時、横浜FCとやったゲームなんかはすごく僕も、あの一、雰囲気も含めて、まあ、良かったなと思い、5点入ったからそういう思いなのかもしれないんですけど、ま、やりたいなと思うんですけどね、ま、これも繰り返しになっちゃいますけど、やっぱ1万ちょい、入って、ま、色々な予算が掛かって、選手も移動しなきゃいけないっていう様な事を考えると、まあちょっと難しいかなと思つてはいますけど。

なんかでやりたいなとは思いますよ。

(トイさん)わかりました、ありがとうございました。

(司会)淡路島はちょっと、なかなか(会場笑い)、難しいんですけど。

(司会)はい、ありがとうございました。

えーと他にサポーター、ご質問、はい、どうぞ。

(オカジマさん)オカジマと申します。

(社長)はい。

(オカジマさん)色々と数年前から聞きたいと思いながらちゃんと聞けなかつたんですけども、

(社長)はい。

(オカジマさん)シニアのシーズンパス、は、何故無いんでしょうか?

(社長)これもう何回も聞かれてるんで、誰かたぶんうちのスタッフが一番バツと答えられるんじゃないかと思うんですけど。

何で目を伏せる、みんな。(会場笑い)

だ、トータルして、損になっちゃう、じゃないかな、お客様の方が。

(オカジマさん)え?

(社長)あ、じゃあじやあ、ああまあ、まあ、去年全く同じ、もう、ごめんなさい僕もうこれ、任せますそっちに。

((株)コンサドーレ・スガワラさん)はい。

スガワラと申します。

昨年も、

(社長)昨年もしたそうなんで、簡潔にお願いします。

((株)コンサドーレ・スガワラさん)はい。

まず、シニアの方々に、当日、かなりの割引で入って頂いてるっていう事ですので、より一層先程のサポーターの方が言って頂いた様に、入場料収入増やしていきたいと、いう側面から考えると、ちょっと、パス、は、流石に割引率が高すぎるので、ご勘弁頂いてると、いう事で、昨年は、齋藤さんにフォローして頂いたと、記憶しておりますので、ここから齋藤さんにバトンを渡したいなと思います。(会場笑い)

(社長)じゃあお願ひします。

(司会)まああのー、その分少し、まあ、年取ったサポーターが金を負担しながら、貢献していけば良いんじゃないかなという話も去年ちょっとしましたけども。

ま、只私としては、100歳を超したらタダで入らせて貰えるとか、なんか、その引き換え条件があれば良いかなとは思ってはいますけどね。

((株)コンサドーレ・スガワラさん)そうですね、その辺り、年齢の幅とか、そういった事をちょっとこれから考えたいなと、いう風に思っておりますので再考させて頂きます。

(オカジマさん)なかなかあのー、シーズンパスでないと、早めに入れないとですね。

で、あの、シニアの買う時は、やっぱり、多い、去年なんかでも、あの、これはもしかしたら、何枚限定ですよっていう様な、あるので、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) あの、

( オカジマさん ) だから、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) 今後ちょっと、あの、色々とご相談していきたいんですけど、

( オカジマさん ) はい。

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) 前売りで、要するに、シー、前売り、あとシーズン、そういう事になってくると、逆に、ちょっとお金を余分に頂くっていうパス、になっていくんじゃないかなと、いう風に思いますので、今の金額のまま、シーズンだとちょっと厳しいなと思ってるんですけど、それは大丈夫ですか？

( オカジマさん ) はい。

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) はい、わかりました。

( オカジマさん ) 今、シーズンパス、を、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) シーズンパスの方が良いって事ですよね？

( オカジマさん ) シーズンパスで、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) はい。

( オカジマさん ) 持ちたいんですけども、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) はい。

( オカジマさん ) だから、今、一試合 1,000 円ですか、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) はい。

( オカジマさん ) だから、1,000 円でなくて、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) はい。

( オカジマさん ) 何試合分？の纏めた売り、

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) なるほど。

( オカジマさん ) の感じのが欲しいなという、いちいちすいません、あの列には並びたくないんです。

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) わかりました。

ちょっとあの、来シーズンにむけて、検討課題にします。

( オカジマさん ) すいません。

( (株)コンサドーレ・スガワラさん ) はい、ありがとうございます。

( オカジマさん ) それとあの、あと二つほどあるんですけども、今年もそうだったんですけど、コンサのキックオフ、きたエールでしてから、する様になってから、待機列が 12 時からしますのでっていう様な、なってたんですけども、やっぱりちょっと早めに行ってたもんですから、そこんとこどういう風に並んだら良いんだろうってみんなで右往左往しながら、今年も並んだんですよね。

だからその辺は、クラブとしてはどういう風なお考えなのかなど。

(社長) それは12時からって言ってるけど、

(オカジマさん) うん。

(社長) 11時から来ちゃう、

(オカジマさん) いや、もっと、

(社長) 10時から来る人がいるから、

(オカジマさん) もう8時9時にはいます。

(社長) 8時から来る人がいるから、8時にクラブの人も来いという事ですか？

(オカジマさん) いや、クラブ、ここそころ、こういう風に待機列、あの、ドームとか厚別の様に待機ここからしといてっていう様な感じが出来ないものかどうかなと思いまして。

(社長) 出来たら来年、やりましょうか。

(オカジマさん) お願いします。

ありがとうございました。

(司会) ま、入場待機列の問題は永遠続くと思いますよね。

10時にしたら今度朝の6時からでも並ぶ人は並ぶでしょうし、ま、その辺はサポーターの方も、まあ、自分達が良い席を取りたいと思ってフライングする事が最終的に自分達が大事にしてるクラブに、ま、金銭的な負担を掛ける、という事もちょっと頭の片隅に止めて頂いた方が、良いのかなど。

ま、結果的に、天に向かって唾を吐く様な事をしてしまってるんだよと、いう事がありますと、いう事ですね。

じゃあ次のサポーターのご質問承ります。

他、ありませんか？

はいどうぞ。

(ヤスダさん) ヤスダと申します。

何点かちょっと考えて来てたんですけど、その中でちょっと質問してみたいと思います。

(社長) はい。

(ヤスダさん) 一つが、SNS使って、今、ホームページの他に、ツイッターが主となって情報発信してると思うんですけど、フェイスブック、あと、インスタ、あと、ラインアカウントも、あるのは把握してるんですけど、中々ツイッターとかホームページと同等の発信はしてないのかなと、感じている所はあるんですけど、そこら辺を、スタッフ少ないのかどうか分からないですけど、どういった感じで今後発信出来るのかなと。

(社長) はい、どうぞ。

((株)コンサドーレ・タゴさん) すいません、広報のタゴといいます。

今のご質問なんですけども、クラブとしまして、色々と今運用を、最適化を図ってる様な状況でして、あの、例えばなんんですけど、ラインアットというところで言うと、まあ大体4万弱位の、フォロワーさんがいらっしゃるんですが、例えば一つ情報出すたんびに、ちょっと

こう、数十の方にブロックをされてしまうという様な事も起こっていたり、あのー、ほんとにどういう情報をどこに投げ込んで行くのが一番良いのかっていうのをちょっと丸一年位かけて、確認を今してまして、まだその今確認の途中なんですけども、で、一応今後は、それぞれのSNSのフォロワーの特性に合った物を配信をして、あのー時期もう全てに同じ情報を全部一緒に出すっていう様な事もやった事もあったんですけど、結構それでフォロワーが減ってしまったり、逆に減ってしまったりという事もあるSNSがあつたので、そういうところをちょっと確認しながら今進めています。

一応まあ、皆さんもお分かりだと思うんですけど、例えばインスタグラムは女性がフォロワーさん多いというか、使用者さんが多いので、ま、女性向けですとか、そういう風にちょっと性格を確認しながら、やっていこうと思います。

はい、すいません、以上、その様な状況です。

(ヤスダさん) はい、ありがとうございます。

今の質問だったんですけど、自分やっぱりフェイスブックと、ユーチューブで動画、あの、サポーター、すみ、あの、開幕前の、サポーターズ、えっと何だっけ、集会じゃなくて、えーと、キックオフのイベント動画配信とかもあったというので、まあ今後こういった所で、すべてのSNSを使って、どうと的に発信してもらいたいなっていう気持ちがあつて質問しました。

と、もう一つが、このサポーターズ集会について、他のクラブをちょっと調べてみた所、結構年間に何回も開催されてるクラブが、あるみたいで、札幌はまあ、この、年に1回開催してるっていう、事を知っていますけど、去年もなんか、この、サポーターズ集会、を開催するにあたってなんか高齢化してるとかって、募集をしてるとかっていうのも聞いてますし、今後、この、コンサドーレの運営の方で、主体となって出来ないのかなっていうのはちょっと感じた所はあるんですけど。

(社長) うちが?

(ヤスダさん) はい。

(社長) これはでも、僕らじゃない方がやるのが一番良いんじゃないかと、僕の認識ではそう思ってるので、この体制で、ま、もう一回やるのかどうなのかは、まあ、考えて頂ければ良いんですけど。

クラブとしてというよりは、まあ、一緒になってやってるよねっていうのを、じょうせいさせていく上でも違う団体ではあるんだけど、こうやって繋がってるみたいな物を表現するのが良いかなと思います、僕の認識では。

だから、そうしたいと思います。

OK?

(ヤスダさん) OKです。

分かりました。

この集会に関しては、何か、サポーターズブログかなんかでしか発信してない様な事もあつ

て、まああの、まあ、その、他のＳＮＳを使ってちょっと発信をして頂けたら、もっと知らない方とかも、参加出来るのかなっていうのは、感じてました。

(司会) はい、ちょっとその件に関して、いいですか？

私の方から喋らせて頂いて。

あのー、まあ、基本的にこのコンサドーレのサポーターズ集会は、サポーターの有志がメインになって主催をしてますので、クラブの関係者の方には、毎年、12月12日の明けたと同時に0時12分にメールで招聘文を送っております。

まあ、ちょっとこの辺はもう17年間拘ってこの辺、この辺だけは守り通してはいるんですけども、そういう形で、あくまでサポーターが中心になって動かしてると。

まあ、サポーターが主催をしてるこういうサポーターズ集会ってのは多分、Jの中ではうちだけだと思います。

後は必ずクラブがお金を出したり場所を用意したり、色々な形でクラブが関与した形の、クラブ主導の、物になってると思います。

只、我々はあくまで、その、チームが出来上がった時の経過から含めて、市民的な、その、意見の集約の中でクラブが出来てますので、この辺のスタンスだけは、守って行きたいかなと。

只、後継者がいなければ、ま、私が棺桶の中にサポーターズ集会を持って入っていくしか無い訳ですけども、只、その位になればもう、この集会が必要なくなるかもわかりませんけども、出来た当初はやっぱり、運営ですとか色々な部分で、まあ、色々な所から資金を出して頂いてた物が、一部私的に流用されたりとか、というのがあって、サポーターが常に目を光らせてるんだよという状態を、まあ、クラブの方に見せておかなければ、クラブの一部の方々がおかしな動きをした時代がありました。

その為の監視の意味で、今はもう、完全にお任せして良い、まあ、我々の本当の身内である野々村社長みたいな、選手から出た方が運営されてますので、そいつた意味ではそういう資金的な部分での心配というのは無い訳ですけども、只、皆が一つのクラブを作り上げてきて中で、サポーターが中心で運営を継続していくっていうスタンスだけは守っていきたいかなと、いう風には思ってます。

(ヤスダさん) わかりました。

ありがとうございます。

(司会) はい、他のサポーター、ご質問ございませんか？

はい、じゃあ。

(コカミさん) すいません、コカミと申します。

(社長) はい。

(コカミさん) 宜しくお願い致します。

(社長) お願いします。

(コカミさん) サポーターやってまして、ここ2、3年、肌感覚としてだいぶお客さん増え

たなっていうのはあるんですけども、アウェイにFC東京で4,000人行ったとか、埼玉スタジアムアウェイ完売させたとかいって、結構増えたって感覚あるんですけど、実際の所どれ位増えたかっていうデータはありますかっていうのが、二つ質問あるんですけど、良いですか？

(社長)あ、もう一個どうぞ。

(コカミさん)二つ目なんんですけど、お客さんだいぶ増えて来まして、で、ゴール裏もだいぶ埋まる様になって来まして、で、熱烈サポーターゾーンってのも広げたりすぼめたり、まあ、試合によって変えてはいると思うんですけど、あれ、下の部分は、広島戦の時、全部、熱烈サポーターゾーンになったと思うんですけど、で、広島戦の時、上の方もあの、立って応援したい人とかいたと思うんですけど、上の方は座ってっていう形にしてたと思うんですけど、今後は、人、これから、野々村社長平均入場者数3万を目指したいって言ってる人が増えていくと思うんですけど、増えてったらどういう風にしていくのかなっていう事をお聞きしたいです。

以上です。

(社長)はい。

どうぞ。

数字、あるよ何か。

ああ、まあ、じゃあ、その、今の、質問に対して、あれで良いですよ。

広島の時でも何でも。

((株)コンサドーレ・スガワラさん)いや、えっと、アウェイの人数まで明確に把握してないんですけど、2017年シーズンのホームゲームは、

(社長)18年？17年？

((株)コンサドーレ・スガワラさん)17年。まず、

(社長)17年ですね。

((株)コンサドーレ・スガワラさん)17年が31万3,100人入って、平均が1万8,418人。2018、昨シーズンが、30万9,798人で、平均が1万8,223人と、若干下がってはいるんですけど、その理由は、札幌ドーム、

(社長)ま、みんな分かるでしょ、これもう。

((株)コンサドーレ・スガワラさん)の、試合数が少なかったっていうことです。

(社長)ここ、ここにいる人はあの、厚別の5試合が、

((株)コンサドーレ・スガワラさん)ですよね。

(社長)ガンバ、レッズ、マリノス、ジュビロ、フロンターレっていう、僕がここでもう78万人多分損してると思ってるので、

((株)コンサドーレ・スガワラさん)なので、2017年が収入で言うと6億2,200万円、の、興行収入だったのが、昨シーズンは、それだけ、試合数がドームで少なかつたのに6億3,500と、いう事で、入場者数も興行収入も増えてると、いう様な数字になってま

すので、アウエイのサポーターの方々も含めて、まあ、今の所、順調に、増えていってるんじゃないかなという風に、把握はしています。

あと、運営の部分ですけど、ど、どうこ・・・

( (株)コンサドーレ・カサイさん ) コンサドーレ運営のカサイと申します。

宜しくお願ひします。

ご質問にありました「熱烈ゾーン」なんですけど、去年は、ゴール裏 12 ブロックあると思うんですけども、まあ、10 ブロックでやつたり、12 ブロックでやつたりっていうところでちょっとお客様の肌感覚を確かめる意味でも、行なってきました。

で、行なってきた理由としては、あくまでもゴー、まあ、スタジアムの雰囲気を良くするといった時に、ゴール、ゴール裏だけではないんですけど、ゴール裏発信、だつたり、ゴール裏が音頭をとるという、ところがあって、クラブとしても、そこに、そこが、スタジアムの雰囲気を作る、良く作り出している、きっかけというか、重要視はしています。

で、そこを、まあ、お客様のニーズにあった、立って応援したい座って応援したいというニーズはそれぞれあると思うんですけど、ま、今後、もっとじゃあスタジアムを、良い雰囲気にしていくってなった時に、まあそういった、まあ、立って応援するのが熱烈という風には、その認識はして頂きたくはないんですけど、まそういった環境作りをクラブとしてしていくっていう所で去年やってきました。

で、今年に関しては、ま、そういった所も、12 ブロックですね、12 ブロック、あくまでもスタンディング可能エリアですという事で、シーズン頭から運用の方をしていきます。

勿論、座って応援、必ずしも立って応援して良いっていう、立ちしかいない席っていう認識を、皆さんにして欲しくは無くて、あくまでも、座ってる人立ってる人っていうなかがいる中で、そこを、お客様の、勿論見えない、立ってちゃ見えないだろという意見も勿論あるとは思うんですけど、そういった所も徐々に、そのエリアで、エリアをこう、クラブが決めるんではなくて、あくも、あくまでもそこが、環境としてあって、ま、それを、今後どうなっていくかっていうのが、まあ、その、ゴール裏の雰囲気だったりとか、お客様の、もっと、自分、クラブ応援したいっていう所に、なってく、その、それ次第になってくるので、一応、3月の、開幕戦から、シーズンを通して 12 ブロック、前段ですね、あのインナーゲート潜って、前段部分は、「熱烈ゾーン」、12 ブロック、スタンディング、あくまでもスタンディング可能エリアですという事で運営を、運用をしていきます。

はい、以上です。

( 社長 ) すいません、話が長くて。

( 司会 ) ありがとうございます。

( 司会 ) はい、ありがとうございます。

て事はあれですね。スタンディング可能と。

そこで、ちょっと座っててもOKと、いう事ですよね。はい。

ですからあの、ちょっとあの、体力的にきつくなつたんでちょっと座ろうとかっていうサ

ポーターがいらっしゃってもそれはOKという事ですので誤解の無い様にお願いします。

はい、では他のサポーター、はい、奥の方。

(タケダさん)すいません、2回も質問してすいません、タケダと申します。

あの、先程、あの、サポーターズ集会、運営会社でやって欲しいって意見有りましたけど、私も全く意見、同意見なんですね。

と言うのは、このサポーターズ集会、まあ、毎年の様に見てるんですが、どうしてちょっと平均年齢が高いといいますか、古参のサポが多いんですよね。

で、あの、以前2015年だったか、「野々村芳和とコンサドーレの未来を考える会」っていうのが、あの、札幌ドームであったんですが、まあことは、まあ、申し訳ないんですけど、ずっと人数も多くて、質問もかなり多かったはずです。

で、あのー、やはり何て言うか、偏りの無いっていうかね、幅広い年代の意見が、集約出来ると、まあ、どうしても、広報とか告知の関係で、あの、オフィシャルのホームページで、広報した方が人は沢山集まるし、幅広いしん、新しいサポーターの意見とかも聞けると思います。

あと、会場の問題がありまして、ま、この札幌コンベンションセンター大変立派な建物なんですが、その分、若干、賃借料も高いんですよね。

で、なんでここでやってるかと言うと、募金の問題があるんですよね。

ここその後ろ側で募金活動やってるんですが、これも、あの、普通の公民館とかでやると、募金は禁止なんですよ。

で実は2017年に札幌市教育委員会っていう所で、教育会館でサポーターズ集会やったんですが、あそこで募金やんのはほんとは違反なんです。

で、ちえ、2006年位に、「ちえりあ」から札幌コンベンションセンターに移ったのも、理由は募金問題なんですね。

ま、そういう問題もあるのと。

あと、運営体制なんですが、色々、まあ、僕はちょっと色々言いたい事があるんですが、ま中々ちょっと、まあ、最近かなり、あの、すごい、私が文句言つたせいもあるんですが、まああの、何て言うかな、主催者さんが、あの、サポーター、他のサポーターに対して、色々ご自分の意見とか思いとかを言う機会が結構多い、かったもんですから、まあ、運営会社主催になるとそういう事もちょっと無くなるんじゃないかなと思います。

で、あのー、議事録も1年以上かかってます。

まあ、一番ひどい時は一昨年のサポ集会の議事録も出来てなかつた事がありました。

で、まあ、あの僕も実は、このサポ集会の議事録作ってた時期が一時期あったものですからあの、文字起こしするのは大変だってのは良く分かってます。

まあ、で、斎藤さん自身が、まあ、私が棺桶に足を片足突っ込んだら、もう、この集会は終わりになると言ってますけど、まあ、いずれはちょっと申し訳ないけども、サポーターで運

営するのはちょっと、厳しいんじゃないかなと個人的には思ってます。  
ま、そういう事で、ちょっと将来的には、あの、クラブ運営会社で、やられた方が良いんじゃないかなと思います。

以上です。

(司会)ありがとうございます。

一つのご意見として参考にさせて頂きますが、まああの一、色々と、ご意見等がございましたが、あの、ま、昔「ちえりあ」でやってた時に色々とあったという事もちょっとご認識の内容が違うかなとは思います。

その当時、「ちえりあ」の担当の方がコンササポで、ま、非常に良く会場の確保ですとか、そういったものに便宜を図って頂いた事がありまして、そのサポが担当から外れた関係で場所を移動したと。で、こちらのコンベンションの方も、今は、去年からちょっと担当者が変わりましたけれども、それまでは、タカハシさんという方だったんですけど、その方は、コンササポで、非常に好意的に我々の方にして頂いたもんですから、そういった関係で、こちらの会場を選ばさせて頂いたと。

只、1年間だけ教育文化会館に移ったのは、ここがあの、アジア大会かな、何かの、あの、プレスセンターになった為に使えなかつたと、いう事だけで、あの、色々な意味で、我々のスタンスとしては、サポーター同士で作り上げていこうと、いうスタンス、それとあとまあこういった飲み物なんかも、全てスポンサー関係の物、又は、スポンサーの、例えば、今年の物ですと、サツドラで全部購入してるとか、今迄は例えばコカ・コーラの製品だったりサッポロビールだったり、そういった物も全部、心がけて購入してると。

まあ、そういった小さな事ですけども、そういった事は心がけてきたかなと。

まあ、その辺の部分で、まああの一、今タケダさんからもお話がありましたけど、サポーターズ集会は別に一つじゃなくて二つでも三つでも構わないと思うので、例えば、若手サポーターズ集会でも良いでしょうし、何かそういった物を企画されるんであればどんどんそういう機会を、他の方が、立ちあげて頂いて、やって頂くのは我々と敵対するものでもないのでみんなお仲間でございますから、ですから、もしそういう集会が年に何回も、我々は今この時期が、一番ベストだっていう事で、ずっとやってきてますけども、夏場にそういうのを定期的に作つたら、作りたいとか、例えば秋口にそういうのを作りたいというのがあつたら、そういう団体が立ち上げて頂いても全然構わないと思います。

それはチームの方に申し入れをして、今度こういうのをやるので協力してくれという事で、その中で同じ方向、向いていて歩いていければなという風に思いますので。

我々の後を引き継いであげてもいいよっていうサポーターがいらっしゃれば、何年か一緒にやって引き継ぐっていう事もあるでしょうけれども、我々もまた先輩サポから引き継ぎましたので、只、我々の代になってからもう17年やってますので、マンネリ化している部分もあって、ご指摘も多々あるかと思いますが、その辺は虚心に承っていきますので、今後ともご指導宜しくお願ひしたいと思います。

以上です。

では、他のサポーターのご質問ございませんか？

何か、強制的に挙げられて . . .

(イトウさん)イトウマコと申します。

お久しぶりです。

何よりです。(会場笑い)

(司会)何か社長個人的にあつたんですか？

(社長)いや、いつも居るんですよ。練習場に。もういいから。

(イトウさん)今、前にも、去年だつたかな。

ゴール裏に座つてた時に、旗振る人方は、皆、下で熱烈に皆で応援して振つたりしてゐんですけど、真ん中で旗振つてゐる人がいるんですよ。

何か、声上がって、何か、旗で見えないよーって言つてゐるのも関わらず、フラッグっていう旗とか、真ん中で振つてゐる旗があるんですよ。

皆見えないよって言つてゐるのに。

(社長)ああ。

(イトウさん)何回も振つてゐるから。

(社長)ああ。

(イトウさん)ちょっと私も困るなーと思って、邪魔で。

応援しづらいなーと思って。

(社長)ああ。

(イトウさん)そういう話をしに來たんです。

(社長)ありがとう。

(イトウさん)はい、困つています。異常に。

(社長)OK。

(イトウさん)教えて下さい。

(社長)教えるも何もないな。

気を付けて欲しいよね。

(イトウさん)はい。

(社長)その人も必至で頑張つてゐるから、ちょっと許してあげる気持ちも持ちながら、向こうにも気を付けてもらおう。

(イトウさん)そうですね。

(社長)ね、そうしよう。

(会場の方?)注意事項としてパンフレットに残してもらいたいなと。

(社長)いちいちさ、全部ダメだ、これがダメだっていうのはか辞めないか。

あー、そうしよう。

良し。

OK。

(イトウさん) 有難うございました。

(社長) はい、次。

(司会) でも、貴重なご意見ですよね。

ゲートフラッグなんか、一時期すごく多かったんですけども、いろいろと我々も工夫しました。

ゲートフラッグに細かな穴を開けて出すと、ピッチから見ると文字は読めるんですが、後ろに立ったサポーターはピッチ見えるんですよね。

そういう特殊なゲートフラックを特許を取って、コンサドーレにお金を入れようかなと考えた時期もあったぐらいですけど、そういう様な工夫もしてみては如何かなという風に思います。

その穴のピッチですとか大きさだとか、そういった物は研究が必要かと思いますけれども、ひとつ的方法としてはそういうのあります。

只、本当にフラッグを中盤で振られると、その振るタイミングにもよるとは思いますけれども、後ろのサポーターがご迷惑になる場合もありますので、皆が同じコンサを愛するサポーターですので、その辺、他の人の事も考えてあげたら良いかなという風に思います。

では、他のサポーターのご意見ございませんか？

はい。

その後ろの。

(ジンノさん) ジンノと申します。

宜しくお願いします。 博報堂さんが、

(社長) はい。

(ジンノさん) 2016年に入って、ちょうど7年のうちの半分ぐらいになるかと思うんですけども、この3年間の総括と、今後、残りの3年間でどういう事をやっていくか教えて頂きたいと思います。

(社長) 3年前にクラブを、僕がその時に35億円ぐらいにする為に、博報堂さんみたいな仲間を作らないといけないなと思って契約をしたと。

結果、後期上手くやれると35億ぐらいにはなるので、その中で彼らがいた事の意味は小さくないと思ってるんですね。

だけど、早いタイミングでここまで成長出来たんで、次の3年、もっともう少し長く博報堂とも一緒にやっていこうとは思ってるんですけど、よりクラブだけでは出来なかつたっていうような事を、彼らにお願いをしなきゃいけない。

でっかい、簡単にいうとほんとでっかいスポンサーをどれだけ連れて来る可能性を見せてくれるかっていう所を期待をしたいと思っていて、ここまでは、実際に博報堂さんだけの力では勿論ないんだけど、一緒にやる事で売上は3倍ぐらいに増えているので、そこに関しては一緒にやれて良かったなとこっちも思っているし、たぶん向こうも思ってると思うんですよ

ね。

でも、今ままを維持するんじゃなくて、50億、100億つてする為には、こっちからの要望はもっと大きな要望になるし、それを達成してくれれば、彼らに払うものも、高くなる沢山になるというような感じにはなっていくと思うので期待はしています。

たぶん、ここにも何人かいるんですけど、博報堂の人。

これをたぶん、プレッシャーと思うと思うんですけど、たぶんやってくれると思います。

しっかり上司に伝わると思います。

(司会) はい、有難うございます。

では、他のサポーター。

はい。

(コヒラさん) すいません。

2度目の質問で申し訳ございません。

コヒラです。

私、上のサポーターの方とちょっと交流あります、何チームか。

それで、日程、発表されますよね？

日程の対戦相手、どういう風に決められているのかなって、それ、ちょっと質問なんですか。

(社長) 日程くんっていう、日程くんだよね？

日程くんっていうソフトがあって、それはJリーグがあるんですけど、日程くんが決めるんですよ。

そこにいろんな条件を打ち込む、事前に打ち込むんですね。

一応、ルールとしては各クラブ4つだっけ？ 4つ、要望は出せる。

開幕の所は、例えばうちのクラブは、ここ、ここ、ここは、必ずやらして下さいみたいな要望を、各クラブ4つまで出せて、開幕やった所は最終戦やれないみたいな、幾つかの条件をその日程くんに入れて、後は日程くんを回して日程くんが決めるんですよ。

これ以上、言いようがないな。

何て言えばいいですかね。

そういう事なんですね。

只し、わからないんですけど、Jリーグもどうやって盛り上げた方が良いかとかって言う事を考えて、開幕カードを、たまたまあんなたとは思えないし、幾つかの条件はJリーグの方で入れていると思います。

その中で、うちは去年、とんでもない日程くんだったので、すごく沢山いろんな事をお願いをしました。

Jリーグはもっと沢山の人に観てもらわないといけないみたいな事を言うくせに、レッス戦を厚別に、はめてくるとかって、お前らどういう事なの？っていうような話をすごくしたんで、今年はわかんないっすよ。

たまたま、ああなったのかもしれないんですけど、日程くんにうちの条件をちょっと幾つか入れてくれたかも？しれません。

(コヒラさん) 有難うございます。

あと、昨年までマリノスのサポーターさんが、平日開催だったので、すごく札幌遠征行けなくて困ってたので、あと、他のサポーターさんも、自分の勝利、自分とこの順位が、自分とこの応援の次に、うちの応援をしてるって言うんですよね。

札幌遠征、とっても楽しみにしてるので、出来れば、観客の見込める試合とか、土日とか祝日とか、すごく有難いなって思いつつ。

はい。

(社長) はい。

僕もそうですから、日程くんです。

(司会) はい。

そういう日程くんっていうソフトがあるのは、今、初めて私は知りましたけども、只、今まであれですよね。

やっぱり、他のチームのサポーターもやっぱり、北海道に遠征に来るっていうのは、ひとつの楽しみで、美味しい物食べて帰ろう

(社長) それはありますよね。

(司会) というのがありますて、2、3年前までは、プラス勝ち点3までもらえるという、そういうボーナスステージのような扱いを受けてましたけど、なかなか最近は勝ち点3をもらえないっていうチームになって来ていますよね。

(社長) そうですね。

そうじゃないと。

持つてかれてばかっりじゃダメですよ。

(司会) はい、じゃあ最後にご質問、もうひとりお受け致しますが、もうありませんか？

はい。

最後のサポーター。

(ホウジョウさん) 失礼します。 ホウジョウと申します。

えっとですね、遅刻して来たんで、質問被ってたらごめんなさいなんですけども、昨年のガンバ大阪戦の当日券の事はまだ出てませんか？

(社長) 準備。 当日券の事、はい。

(ホウジョウさん) は、はい。

(社長) なんですか？

(ホウジョウさん) 情報が錯綜して、実際、私も当日券、買いに行ったんですけども、アウエイサポーター席しか売られてなかつたという、実際には。

それで、情報錯綜し、他の座席種も売られるという情報で、当日券行ったんですけども、結局、アウエイサポーター席しか買えないという、ガンバサポーターしか買えないという状況

そういう現場だったもんですから、あきらめて帰ったんですけども、実際にテレビで観たら赤黒バックが、の、アウェイ、右側がガラガラ状態だったという。

それで、ちょっと、本当にフロント側も、実質把握してんのかなー、把握出来ているのかどうかという、そういうちょっと不満があつたんですけど。

(社長) はい。

((株)コンサドーレ・アツミさん)チケット需要部のアツミと申します。

今の件ですけれども、事実として、ちょっとごめんなさい。

私も、記憶の中では、アウェイのサポートゾーンだけ販売したっていう、ちょっと記憶がなくて、只、おっしゃる通り、ほぼ完売ですっていう事を出したにも関わらず、スタンドに空席が多かったというのは、これは間違いなく事実でございます。

これは、大きな要因としては、考えられるのは、シーズンシートですとか、招待券、そういう物を出していた、そういう物をお持ちの方が、何らかの理由でお越し頂けなかつたというのが、一応、あの後、もちろん反省も含めて、分析をしたんですけども、そういう結果でございました。

正直、なかなか、その札幌、ごめんなさい。

厚別競技場で、1万人、1万人を超える、大きく超える試合っていうのが、これまで、ここ数年は、あまりなかったものですから、数字的、どこまで販売して良いかどうかっていう、資料が不足していたというのが実情な所でして、そこを昨年、ガンバ戦で経験する事が出来まして、その後の試合、特に最後の浦和戦に付いては、何とか、沢山入って頂ける様にという事で、出来たと思ってます。

何か、しっかりとした回答になってないかもしれませんけれども、今後、今年付いては対戦相手、先程から出てます様に、去年程の混雑というのが、ないかもしれませんけれども今後もそういう事がない様にですね、しっかりチケットの方の管理、していきたいと思いますので、ご協力、また席詰めなどですね、ご協力をお願い頂ければと思います。

以上でございます。

(ホウジヨウさん) すいません。

もうひとつ、字数と言えばなんですけど、マッチデープログラムが、何試合かで手に入る事が出来なかつたっていうのがありますて、ひどい時には30分前、キックオフ30分前に入場したにも関わらず、受け取る事が出来なかつたっていう例もありますし、たぶん、何試合、フロンターレ戦だとか、ジュビロ戦だったか忘れたんですけど、前の試合のプログラムを持って行くと、何か扇風機が貰えるというのがあって、その時には、一番ひどかった。

全然手に入らなかつた。

開始前に行つたにも関わらず、もらえなかつたっていうのがありますて、たぶん、これ、広告の収入源にもなるっていう前にも聞いた事あるんですけども、それが手に入らなかつたっていうのが、ちょっと残念だったなーというのがありますんで、毎回、余る程、作れとは言いませんが、どうにかならないものかと思います。

(社長) 有難うございます。 はい、分かりました。

(ホウジョウさん) はい、有難うございます。

(社長) 何か、言う事ある？ もうだって。 あるの？

((株)コンサドーレ・アツミさん) あの、すいません。

今後、歩留まり率っていう物を、もう少し見直そうという話をしているのと、あと、先程、ガンバ戦は席詰めが逆に、皆さんのご協力のお陰で上手く行きまして、逆に空いてしまったといった所もありましたので、今後はもう少しチケット売れるだろうという風に思っておりますので、今シーズンからは、今のお話と含めて、なるべく精度を上げて、チケット、プラス、マッチデープログラム、配布等を検討したいと思いますので、昨シーズンはその辺りは本当にお詫びしたいと思います。

(社長) さつき、途中で全席指定みたいな話あるじゃないですか、あれやっちゃうと一番、本当に簡単なんですけど、厚別とか、本当はカウント上は10人座らなきゃいけない所に、普通に座ると、何か7人くらいしか座わらないみたいな事って良くありますよね？

そこを、「詰めて下さい！詰めて下さい！」って言って、詰まても8人だろうなと思ったのが、10人皆詰めてくれちゃったんで、思った以上に席の空きが出ちゃったみたいな、ものとか、レッズの時はアウエーが、何か1000人ぐらい買ってくれているのに来なかつたみたいなのがあるんですよね。

こっちの売上としては、たってるし、当然、売上合ってるので、来るとしたカウントの数1000人くらい来てないとか、もしかすると、寒いし、厚別だし、みたいな感じの人達が沢山いたのかもしれないんですけど、いずれにしてもその、自由席に何人詰めてもらって入れるかと、あとは、持株会さん等も含めた招待券で、どのくらいコントロール出来るかとか、固定席で席、固定じゃない所の難しさみたいなものを、人が入れば入る程、誤差が出てくる物なので、誤差が出ない様に、ちょっと一生懸命、この皆さんにやってもらいたいなという話は、クラブ内でもしています。 はい。

(司会) はい、有難うございます。

じゃあ、これで質問タイムを終わります。

ちょっと、サポーターの有志の方、我々の有志というか、我々とはまた違うグループですけども、連絡があります。

3月3日、あ、野々村社長すいません。 一旦。

(社長) はい。

(司会) サポーター有志の方から、3月3日の日曜日、12時から丸井今井の前で、またビラ撒きがあるという事で、サポーターズ集会で伝えてくれという風にメールが入ってましたので、一応、ご連絡致します。

あと、社長の方から、最後に皆さんに、何か、一言、お願い致します。

(社長) はい、有難うございました。

まずは、練習試合から行きます。

3本目は0-0だったみたいですね。

あんまり、まあまあ、ぼちぼちの内容で、終了間際に武蔵がPKをもらうも、またも外して無得点って。

4本目は、10分、11分に、連続失点。

17分に1点取って、41分に1点取って、最終的には6-2で、今、終わったのか？みたいな感じです。ですね。

だから、4本目は2-2って事かな？

トータルは今の所、6-2、6-2って言つても、前半、1本目と2本目のゲームが一番、脂っこい所なので、そういう状況です。

全部、内容観た訳じゃないんですけど、今までの、今シーズンの、ちょっとキャンプ帯同してみて、やっぱ面白い事は面白い、間違いなく、攻撃の所のワクワク感は見せてくれると思います。

守備の所のハラハラ感も見せてくれると思いますけど、でも、今のコンサドーレが今のサイズで、大きなクラブに勝とうと思ったら、やっぱ、そういうトライをしていかないと、上には行けないし、もっともっと成長した時に本当にACLに出て行って、ACLで上に行く為にも、この時期を過ごしているという風に思って頂いて、今シーズンもサポートして頂けたらなと思います。

1試合、1試合、大事ですけど、僕ら選手じゃないんで、選手は本当に、目の前の1個1個大事ですけど、何年か先のスパンで、それこそ、僕らがいなくなつた後とか、死んだ後も、コンサドーレがこういう風になってたらいいよねという様な思いをしつかり持って、一喜一憂する事も面白いんで大事なんですけど、長いスパンで考えていって頂けたらなという風に思います。

今シーズンもひとつ宜しくお願い致します。

有難うございました。

(司会) どうも、長い間、有難うございます。

それでは、恒例のコンサドーレコールを、ヨーデルさんお願いします。

(ヨーデル山本さん)

どうも、僭越です。

本日は鈴木武蔵くんの誕生日だそうです。

こつから、沖縄へ、武蔵くんに、ハッピーバースデーを届けたいと思います。

せーの、ハッピーバースデー♪ディア武蔵～♪ハッピーバースデートゥーユー♪

てな訳で、クラブの思惑は別として、サポーターとしては、全タイトル取る事を期待して応援していきましょう！

それではコンサドーレコール、いきまーす！

せーの！

コンサドーレ！

( 会場全体で ) コンサドーレ ! コンサドーレ ! コンサドーレ !  
有難うございました。

( 司会 ) どうも有難うございました。

お帰りには気を付けて帰って下さい。

社長、どうも有難うございました。

( 社長 ) ありがとうございました。 ( 会場拍手 )

-各々挨拶 ( お疲れさまでした。等 ) -

( 司会 ) 雪道滑りますので注意して帰って下さい。